教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価報告書

令和　7　年度事業分

令和　8　年　　8　月作成

伯　耆　町　教　育　委　員　会

目　次

○ はじめに　…… 1

○ 教育委員会の活動状況　…… 3

○ 主要事業の点検評価　…… 8

○ 伯耆町教育委員会の自己点検・評価シート　…… 14
（第2次伯耆町教育振興基本計画　中間点検・評価シート）

■はじめに

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）」により、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない」ことが法第26条第1項に規定されており、これに基づき、前年度における伯耆町教育委員会の事務の管理及び執行状況について、点検及び評価し、その結果をとりまとめたものです。

なお、教育行政における最上位計画である第２次教育振興基本計画（R3～R12）について、令和８年３月に策定された第５次伯耆町総合計画の内容、中間年としての総合的な点検及びこれまでの教育施策等の進捗状況を踏まえて、本年度に見直しを行います。そのため、今回の点検評価は中間点検を兼ねて、昨年度までにいただいたご意見も参考に今後の方針・展開についても記述しています。

○点検及び評価の目的

伯耆町教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価することによって、課題や取り組みの方向性を明らかにし、より効果的な教育行政の推進を図るものです。

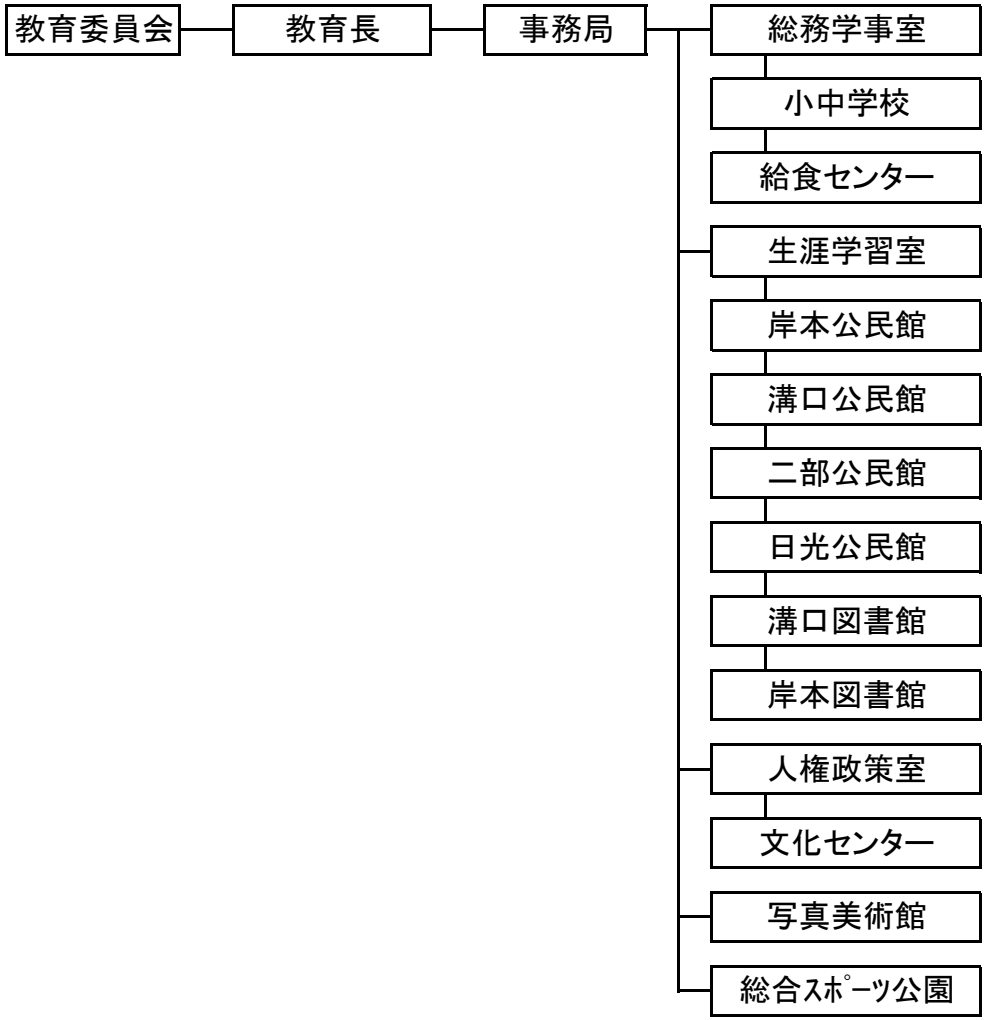
○点検及び評価の対象

伯耆町教育委員会が令和　7　年度に取り組んだ主な事務・事業を対象とします。

○伯耆町教育委員会委員名簿（令和8年4月2日現在）

教育長	橋　本　康　雄
教育長職務代理者	大　木　寿　之
委　員	羽　田　成　夫
委　員	濱　田　真　代
委　員	藤　原　美　枝

○教育委員会の組織図


教育委員会
教育長
事務局
総務学事室
小中学校
給食センター
生涯学習室
岸本公民館
溝口公民館
二部公民館
日光公民館
溝口図書館
岸本図書館
人権政策室
文化センター
写真美術館
総合ｽﾎﾟｰﾂ公園

■教育委員会の活動状況

1．教育委員会の開催状況

開催日	会議別	案件区分	案件名
4 月　24 日	定例会	報告	教育長報告
		報告	当面の教育委員会関係行事予定
		報告	令和6年度全国体力・運動能力、運動週間等調査結果について
		議事	学校運営協議会委員の任命について
		議事	社会教育委員の委嘱について
		議事	文化財保護審議会委員の任命について
		協議	令和７年度伯耆町社会教育計画について
		その他	町長の公約に関する教育委員会での取り組み状況について
		その他	事務連絡
5 月　27 日	定例会	報告	教育長報告
		報告	当面の教育委員会関係行事予定
		報告	学校給食異物混入について
		議事	学校校務分掌主任等の任命について
		議事	区域外就学について
		協議	令和７年度教育委員会関係補正予算の原案について
		その他	令和７年度伯耆町教育委員会学校計画訪問実施計画
		その他	事務連絡
6 月　24 日	定例会	報告	教育長報告
		報告	当面の教育委員会関係行事予定
		報告	６月定例町議会提出案件等の結果について
		議事	校区外就学について
		議事	伯耆町立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する規則の廃止について
		議事	外国青年招致事業等により任用される外国語指導助手等の報酬等の決定及び支給に関する規則の一部改正について
		その他	事務連絡
7 月　29 日	定例会	報告	教育長報告
		報告	当面の教育委員会関係行事予定

		報告	令和７年度前期標準学力調査の結果について
		報告	溝口中学校区学校運営協議会からの要望について
		議事	図書館協議会委員の任命について
		議事	学校給食費の額の変更について
		議事	校区外就学について
		その他	伯耆町「夏休みのお楽しみ」について
		その他	事務連絡
8 月　22 日	定例会	報告	教育長報告
		報告	当面の教育委員会関係行事予定
		協議	令和７年度教育委員関係補正予算の原案について
		協議	令和６年度教育委員会関係予算の決算の原案について
		協議	教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書について
		協議	法人の経営状況について
		協議	今後の溝口中学校区の在り方検討についての要望に対する回答について
		その他	中学校県総体結果について
		その他	事務連絡
9 月　24 日	定例会	報告	教育長報告
		報告	当面の教育委員会関係行事予定
		報告	9月定例町議会提出案件等の結果について
		その他	後期学校訪問の日程について
		その他	伯耆町総合教育会議について
		その他	事務連絡
10 月　27 日	定例会	報告	教育長報告
		報告	当面の教育委員会関係行事予定
		議事	校区外就学について
		議事	要保護準要保護児童生徒の認定について
		その他	伯耆町総合教育会議資料について
		その他	令和８年度新規事業について
		その他	給食費値上げの見込について
		その他	事務連絡

11 月 28 日	定例会	報告	教育長報告
		報告	当面の教育委員会関係行事予定
		議事	学校給食費の額の変更について
		協議	令和７年度教育委員会関係補正予算の原案について
		協議	今後の教育環境の在り方を検討するための組織について
		その他	学校訪問のまとめについて
		その他	令和８年度当初予算編成に係る要望について（校長会）
		その他	教育委員任期満了に伴う改選について
		その他	事務連絡
12 月 24 日	定例会	報告	教育長報告
		報告	当面の教育委員会関係行事予定
		報告	12月定例町議会提出案件等の結果について
		協議	今後の教育環境の在り方を検討するための組織について
		その他	町政に関する要望書について（議会）
		その他	事務連絡
1 月 28 日	定例会	報告	教育長報告
		報告	当面の教育委員会関係行事予定
		協議	令和７年度伯耆町教育委員会表彰受賞対象者の決定について
		その他	卒業式・入学式出席者確認について
		その他	３月臨時教育委員会の開催について
		その他	令和8年1月6日に発生した島根県東部を震源とする地震に係る伯耆町の対応・被害状況について
		その他	事務連絡
2 月 18 日	定例会	報告	教育長報告
		報告	当面の教育委員会関係行事予定
		協議	令和８年度教育委員会関係当初予算の原案について
		協議	人権擁護委員候補者の推薦について
		協議	令和８年度伯耆町学校教育基本方針について
		協議	業務委託契約の締結に関する議案の原案について
		その他	事務連絡
3 月 2 日	臨時会	議事	岸本小学校事務職員による不適切事務処理に対する内申について

3 月　10 日	臨時会	議事	令和8年度　伯耆町小中学校の教職員の人事異動内申について
		議事	伯耆町教育委員会教育長の辞職について
		その他	事務連絡
3 月　19 日	臨時会	議事	校区外就学について
		議事	校区外就学について
3 月　25 日	定例会	報告	教育長報告
		報告	当面の教育委員会関係行事予定
		報告	3月定例議会提出案件等の結果について
		報告	令和７年度後期標準学力調査の結果について
		報告	令和７年度全国体力・運動能力、運動週間等調査結果について
		報告	伯耆町スポーツ推進支援事業補助金交付要綱の一部改正について
		議事	令和８年４月１日付け教育委員会事務局関係職員の人事異動について
		議事	地域学校協働活動推進員の委嘱について
		議事	要保護準要保護児童生徒の認定について
		議事	伯耆町教育委員会事務局事務専決及び代決に関する規則の一部改正について
		議事	伯耆町立小中学校管理規則の一部改正について
		議事	外国青年招致事業等により任用される外国語指導助手等の報酬等の 決定及び支給に関する規則の一部改正について
		その他	入学式告示案について
		その他	事務連絡

開催回数		15
案件別提出件数	報告件数	35
	議案件数	25
	協議件数	15
	その他件数	30
	合計	105

2. 教育委員会関係会議・事業等

（1）教育委員研修会・会議

〇鳥取県市町村教育委員会委員研究協議会総会・研修会（倉吉市）

〇西部地区町村教育委員会連絡協議会総会（日吉津村）

〇中国地区市町村教育委員会連合会研修会（岡山県倉敷市）

〇西部地区町村教育委員会連絡協議会合同研修会（南部町）

〇鳥取県市町村教育委員会委員研修会（倉吉市）

（2）学校関係事業・行事

〇学校計画訪問　全小中学校

〇入学式・卒業式　全小中学校

〇運動会・体育祭　全小中学校

〇学習発表会・文化祭　全小中学校

〇教職員着任式・離任式

（3）その他

〇二十歳を祝う会

〇総合教育会議（1回）

令和　7 年度　　主要事業の点検評価

当該年度に取り組んだ、主要な事業について、事務の執行状況とそれに対する点検・評価の結果を報告する。

□第２次教育振興基本計画の中間点検について

教育行政における最上位計画である第２次教育振興基本計画（R3～R12）について、令和８年３月に策定された第５次伯耆町総合計画の内容、中間年としての総合的な点検及びこれまでの教育施策等の進捗状況を踏まえて、本年度に見直しを行います。そのため、今回の点検評価は中間点検を兼ねて、昨年度までにいただいたご意見も参考に今後の方針・展開についても記述しています。

□点検と評価の方法

令和　7　年度の教育委員会所管の業務のうち、次の点検・評価対象事業の成果と課題等について、教育委員会事務局による点検・評価を行い、この結果に対して、社会教育委員、公民館審議会委員、図書館協議会委員、小中学校校長、小中学校PTA会長、スポーツ推進審議会委員、地域学校協働本部実行委員及び教育委員に意見等を求めた。

□点検・評価対象事業

伯耆町教育振興基本計画の事業展開方針に基づき、取り組んだ事業を対象とする。

基本目標1　社会の一員として自立して生きていく児童生徒の育成

施策(1)　知・徳・体のバランスのとれた教育の推進

①確かな学力と規範意識の向上、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実

- ・小中一貫学力・人間力定着事業
- ・中学校各1名、小学校1名のＡＬＴの配置
- ・栄養教諭等による食育の充実
- ・運動部活動推進員の配置
- ・人権教育の推進
- ・体験学習の充実など

②教職員の指導力向上のための研修の充実

- ・校内研修への外部指導者招聘
- ・町教振研究大会での悉皆研修
- ・町教委主催各種研修会の実施など

施策(2)　保育所・小学校・中学校の滑らかな接続

①保育所・小学校・中学校一貫教育の推進

・保小中一貫カリキュラムの学習指導要領に合わせた改訂（伯耆I学習を含む）

・保育所、小学校、中学校の児童・生徒交流活動　・ふるさとキャリア教育

・小中学校教職員の交流　・合同授業研究会など

②保育所・小学校・中学校の滑らかな接続

・伯耆町就学支援検討会　・中学校区を単位とする小中学校連携事業の推進

・早期支援コーディネーター配置　・保育所職員、教職員の情報交換会、合同研修など

施策(3)　人にやさしい学校教育環境の整備

①人にやさしい学校教育環境の整備

・少人数学級の実施　・部活動指導員等の配置

・学習支援員と学校司書の配置　・就学援助

・ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ、ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ、早期支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰの配置など

②安全安心で質の高い教育を支える教育環境の整備

・学校施設・設備の充実　・ＩＣＴ機器の活用促進

・スクールガードリーダーの配置　・体育館照明ＬＥＤ化の検討

・ＩＣＴ環境の整備　・給食会計の公会計化検討など

・ＩＣＴに関する教職員の研修や支援の充実

基本目標2　まちぐるみで取り組む教育の推進

施策(1)　学校・家庭・地域・行政の連携

①家庭教育の充実

・家庭教育ハンドブックの活用促進　・家庭教育支援チーム

・放課後子供教室　・学校や関係課と連携した子育て教室等の開催など

②まち全体で子どもを育む地域と共に創る学校の推進

・学校運営協議会・地域学校協働本部と学校との協働　　・学校支援ボランティア制度の充実など

・伯耆町教育ネットワーク会議の取組拡充

施策(2)　みんなで取り組む青少年の健全育成

①「共育」「見守り」環境の整備

・青少年育成伯耆町民会議等関係団体の活動支援　　・あいさつ運動の推進など

・青少年によるボランティア活動の推進

②ふるさとを支える青少年の育成

・ふるさとキャリア教育　　・通学合宿

・伯耆Ｉ学習の推進　　・教育交流事業など

・地域の特性に根差した体験活動の充実

基本目標3　学び続け輝き続けるための環境づくり

施策(1)　心豊かな生活を創る学びの推進

①生涯学習の推進

・公民館を核とした住民活動支援と関係課との連携　　・溝口公民館改修

・生涯学習情報の積極的な発信　　・地域指導者の発掘

・住民参画・協働による生涯学習事業の検討　　・成人団体の育成など

②読書活動の推進

・図書館の利用促進と読書活動の推進　　・あたまいきいき音読教室の開催、出前図書館など

・ブックスタート、ブックセカンド、ブックサード事業の実施

施策(2)　人権尊重のまちづくりの推進

①人権尊重のまちづくりの推進

・明るいまちづくり懇談会の充実等教育・啓発活動の推進　　・個別計画に基づく事業の推進

・人権教育・啓発推進協議会の活動支援
・相談業務の拡充
・文化センター活動の充実など

施策(3)　芸術文化の振興と豊かな人間性の創造

①文化財の保存と活用

・文化財調査及び文化財保護
・文化財教室等の開催
・郷土学習の支援
・文化財の保存・展示施設の整備など

②地域芸術文化の振興

・伝統行事や地域文化活動の開催等支援
・文化施設の適正管理及び利用促進
・芸術文化活動の発表の場づくり
・文化芸術団体等の活動支援と活動の周知
・鬼の館長寿命化など

基本目標4　スポーツや運動を通じての心と体の健康づくり

施策(1)　生活の中にスポーツがある暮らしの支援

①幼児・小中学生のスポーツ活動の推進

・ジュニアクラブの活動支援
・スポーツクラブとの連携による健康づくり
・保育園児への運動指導など

②ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

・ニーズに沿ったスポーツ教室等の開催
・運動、スポーツに関する啓発・情報提供など

施策(2)　いつでも気軽にスポーツができる環境の整備

①いつでも気軽にスポーツができる環境の整備

・スポーツ関係団体と連携した事業の推進
・スポーツ団体の活動支援
・体育施設の適正管理
・海洋センター（体育館・プール）、武道館の照明LED化検討
・グラウンド等夜間照明の在り方の検討など

施策(3)　スポーツでつながり広がる交流・連携の推進

①スポーツ交流の充実・支援

・教育委員会表彰によるスポーツボランティアの顕彰　　・町民対象のスポーツ大会の充実など

②競技スポーツの支援

・教育委員会表彰による功績等の周知　　・全国大会等出場選手の周知など

・スポーツ優秀選手への補助金交付

□評価方法

1. 評価記号の説明

評価記号	説　　明
◎	・新規に企画された事業で目標が達成された事業
○	・継続事業で目標が達成された事業 ・新規に計画された事業で目標がほぼ達成された事業
△	・継続事業で目標がほぼ達成された事業 ・新規に計画された事業で目標達成が不十分な事業
▲	・継続事業で目標達成が不十分な事業 ・新規に計画された事業で目標がほとんど達成されなかった事業
●	・実施しなかった事業又は目標がほとんど達成されなかった事業

※新規事業は、継続事業よりも企画・調整・準備等に多くの時間・労力を要するため評価を高くしています。

2. 評価基準

「(1)評価記号」の説明	達成値
「目標が達成された」	90%以上
「目標がほぼ達成された」	70%以上　90%未満
「目標達成が不十分」	50%以上　70%未満

「目標がほとんど達成されなかった」	**30%以上　50%未満**
「実施しなかった」	**30%未満**

3.目標達成の判断基準

◇　事業が目標の趣旨に沿って行われたかどうか

◇　予算執行が適切な時期までに行われたかどうか

◇　会議、イベント等が適切な時期に行われたかどうか

◇　年度当初に作成された実施計画等に予定された事業が実施されたかどうか

◇　イベント等の講師・指導者の選定が適切になされたかどうか

◇　イベント等の広報宣伝が適正になされたかどうか

◇　会議、大会等の案内状の発送が適正になされたかどうか

◇　参加率の向上のための手立てが適正になされたかどうか

◇　その他不適切な部分がなかったかどうか

第2次伯耆町教育振興基本計画　中間点検・評価シート

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
1-(1) 知・徳・体のバランスのとれた教育の推進	① 確かな学力と規範意識の向上、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実	1	学力向上推進計画策定と進捗管理	総務学事	全国学力・学習状況調査及び標準学力調査(年2回)の結果をもとに、各学校毎に児童生徒の学力向上に向けた取り組みを計画的に実施すると伴に、継続的な計画の取り組みによって、的確な指導体制を確立する。	・町教委が標準学力調査及び全国学力・学習状況調査を分析し、各学校に学力向上への視点を提供した。 ・各学校は、学力向上推進計画に基づいて取り組むことができた。 ・学力調査の分析の上に、校内研究を通して各学校の学力向上PDCAｻｲｸﾙが回るよう、町教委によって、町教振・研修・授業研究会等の機会を中学校区ごとの目標と整合するよう配置し、指導助言を行う。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	(R5)これらの検査は客観的データでもあり学力向上推進のバロメーターとして有効ですので継続をお願いします。 (R6)事業として継続していただきたい。
		2	標準学力調査及び分析の実施	総務学事	標準学力調査を年2回実施し、学力の定着状況を把握・分析することで、児童生徒の課題の改善及び教育施策の成果と課題を検証する。また、教育指導の改善、学力向上推進計画のPDCAを継続的に行う体制を確立する。	・小中一貫学力向上推進担当者会において、各学校の学力調査の結果を校区ごとに分析し共有した。 ・「SP表」等を活用し、各学校学年・学級ごとの学力の様相を教科担当が把握する仕組みを整備した。これにより、学習集団ごとの授業改善の取組につなげることができた。 ・学力調査の分析の上に、「保小中一貫教育ｶﾘｷｭﾗﾑ」を活用した各学校の学力向上PDCAｻｲｸﾙが回るよう、町教委によって、町教振・研修・授業研究会等の機会を中学校区ごとの目標と整合するよう配置し、指導助言を行う。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	(R5)今後も学力を図る指標として継続が必要と感じる。 (R6)伯耆町の児童生徒の学力がどの程度なのかわからない。 (R6)CBT化にもなり、検査から結果までの時間が短縮された。今後も年2回の実施を継続してほしい。
		3	小中一貫学力・人間力定着促進事業 ・学力補充関係事業	総務学事	各学校毎に、学習状況に課題のある児童・生徒を対象にした学力補充教室を開催すると伴に、指導補助員を配置し、よりきめ細やかな指導体制を整備することで、児童生徒の学力向上を図る。 また、英語教育推進を目的に、英語学習に目的意識を持って取り組めるよう英検受検料補助事業を実施する。	・伯耆未来塾を実施することで学習の場を提供し、生徒の学習習慣の確立や学力向上の一助となっている。 ・英検受検について、小学生の受検機会を提供した。中学校英語学習や中学校英語検定受検へつながっている。 ・英検受験料補助について、対象を「小学校1回・中学校1回」から、「各年度1回」に令和6年度から拡充した。 (申請者実績) R6 小学生10人 中学生22人 R7 小学生8人 中学生36人 ・保小中一貫教育の視点を全教職員で共有できる研修会の開催に努め、各校の校内研究が推進されるよう効果のある事業の充実に向けて事業全体をを整備する。 ・英検受検については、補助回数の拡充により受検数の増につながっており、今後も継続して実施していく。 (拡充) 児童生徒の郷土愛・当事者意識(ｼﾋﾞｯｸﾌﾟﾗｲﾄﾞ)を高めるために、町内小中学校において取り組んでいるふるさとｷｬﾘｱ教育において、児童生徒による学びの成果の発信及び、活動の主体として取り組む発展的な学習を支援する制度(補助金)を令和8年度創設。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	拡充	(R5)学力補充教室や英検受検への施策が周知され、利用促進につながっているのか甚だ疑問である。 (R5)外部からの講師を招聘することで校内研が充実していくと考える。継続していただきたい。 (R6)伯耆未来塾について、周知は徹底できているか。参加率はどうか検証してほしい。 (R6)英検受験料の補助はとても良い取組と思うが、どの程度申請があったのか分からない。小学生の受験は、溝口中学校を準会場として実施する際に、同会場で受験できるようにしているが、英語担当者の尽力により成り立っている。担当者が変わっても同様に実施できるのか、今後事業を継続していくための具体案を検討すべきと考える。 (R6)未来塾の利用者はどの程度いるのか。小学生の英検受検者は増えているのか？学校の対応はどうなのか。 (R6)伯耆未来塾では中1～中3まで一緒に学習することで、お互いによい刺激になっている。英検補助拡充により、子どもたちのチャレンジを後押しできている。

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
1-(1) 知・徳・体のバランスのとれた教育の推進（つづき）	① 確かな学力と規範意識、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実（つづき）	4	体力向上計画策定と進捗管理	総務学事	全国体力・運動能力・運動習慣調査の結果をもとに、各学校毎に体力向上計画を策定し、体力向上等に対する的確な指導体制を確立することで、児童生徒の健康増進に寄与する。	・各学校毎に体力向上計画を策定し、中間報告を行いながら、課題に応じた体力向上の取組を実施した。 ・各学校ごとの規模の差が大きく、データのばらつきも大きいため、鳥取県の実施する新体力テストの小5と中2の調査を活用し、系統的な実態の把握に努め、指導体制の確立に活かす。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）小体連等の大会がなくなったこととコロナ禍での指導もあり、泳力の低下が見られる。今後、指導力の向上を図る町全体の取り組みが必要である。 （R6）平均値ではなく個別に目標設定したらどうか。 （R6）小体連等の大会がなくなったことと、若い教員が増えて指導力の低下もあり、泳力の低下が見られる。また、泳力だけでなく体力の低下も継続して見られる。今後、指導力の向上を図る町全体の取り組みが必要である。
		5	小学校外国語教育推進事業	総務学事	令和2年度から新学習指導要領の全面実施に伴い、導入されている小学校での外国語教育の支援のため、町内4小学校を受け持つALT1名を配置する。	・小学校への英語教育に対応するため、町内全小学校を対象としたALTを1名配置して英語教育を支援するとともに、国際理解教育を支援した。 ・引き続き、児童の英語能力の向上と国際理解のためALTを配置する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）小学校へのALT１名配置の時間数がわからないのでなんとも言えないが、単なるゲストティーチャーになってはいないのか？ （R5）全町で1名のALTをつけていただき、大変ありがたい。今後とも継続をお願いしたい。 （R6）ALTの授業以外での学校との関わり、コミュニケーションの向上について検討していただきたい。 （R6）専科の先生にご指導いただいたりALTの先生に授業を充実したものにしていただくことにより、職員の負担減を図ることができています。今後ともお願いしたいです。たくさんの学校を回られますので、忙しいとは思いますが、年度当初に担当が集まり、専科・ALTと一緒に指導と評価について確認をしておけるとよいかと思います。 （R6）全町で1名のALTをつけていただき、大変ありがたい。今後とも継続をお願いしたい。
		6	外国青年招致事業	総務学事	岸本中学校と溝口中学校にALTを1名ずつ配置し、生徒の英語能力の向上に資する。	・各中学校にALTを配置し英語学習と国際理解の充実を図った。また、公民館の英会話教室での講師、広報誌にALT通信を載せる等、地域における国際理解の啓発に寄与した。 ・引き続き、生徒の英語能力の向上と国際理解のためALTを配置する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）令和5年度は、小学校への派遣もあり、児童がALTと触れ合う場があり、貴重な体験となりました。 （R6）ALTの授業以外での学校との関わり、コミュニケーションの向上について検討していただきたい。 （R6）ALT配置に感謝します。JETによるALTの研修は絶対量が少ないので岸本中・溝口中のALT同士で研修し合う機会があってもよい。
		7	栄養教諭による食指導	給食センター	栄養教諭1名、要望による加配職員1名の計2名で栄養指導を行い、学校給食を通じて食育の推進を図る。	・栄養バランスのとれた給食を食べることにより、食事の楽しさ、食事の基礎知識の学習など、児童生徒が食事の大切さを学んだ。児童生徒に地元食材を食べてもらうことで、食育の推進を図った。 ・各学校に出向いての栄養指導等は延べ年154回実施。これに加え、生産者やセンター職員延べ21人と児童との交流給食も全ての小学校で実施できた。 ・毎月発行する学校給食だよりに給食のレシピを3回掲載した。 ・引き続き、栄養教諭の授業参画など、学校と連携した食育の推進を図る。 ・食育、栄養指導等への体制確保が必要。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）1人体勢にならない。後継者育成頑張ってください。 （R6）現場（畑、畜産、市場等）を見学させていただけると学びの質に繋がるのでは。 （R6）伯耆町の給食が他自治体にない試みをされていることも学習し、郷土のもつ素晴らしさ（食に対する）を再認識できるとよい。 （R6）こまめに各校を巡回していただき、給食指導をいただいており、ありがたいです。今後ともお願いしたいと思います。授業の方にも、栄養教諭の先生のご都合がつきましたら、参画をお願いしていきたいです。

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
1-(1) 知・徳・体のバランスのとれた教育の推進（つづき）	① 確かな学力と規範意識、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実（つづき）	8	伯耆町教育振興会事業 ・学校保健	総務学事	保育所、小中学校、教育委員会事務局及び出先機関で組織を構成し、各種専門部会を設置して、町の幼児・学校教育の研究推進や地域の教育力向上を図る。	・朝食調べを全小中学校で行ったほか、生活習慣・ｱﾚﾙｷﾞｰ対応などについて、情報交換を行い、今後の取組の参考とした。 ・町報で取組の紹介や簡単なﾚｼﾋﾟを掲載し、啓発につなげた。 ・各保育所・学校での生活習慣改善の取り組みを調査し、今後に繋げる。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
		9	運動部活動推進事業	総務学事	地域の専門的指導者を部活動指導に派遣し、部活動の活発化、生徒の技能向上、地域との連携の推進を図る。	・(R7年度実績)中学校部活動指導員配置事業(国事業)を活用し、岸本中学校でﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部、柔道部、ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ部、卓球部、陸上部及びｿﾌﾄﾃﾆｽ部に、溝口中学校では柔道部及びｽｷｰ部に部活動指導者を配置し生徒への指導のみならず、教員の負担軽減を図ることができた。 ・部活動の地域移行にむけ、「部活動の地域連携・地域移行計画」を作成し、HPで公表した。 (地域移行ｸﾗﾌﾞ) 1団体を認定 (合同部活動) 3競技 (休日の部活動指導員活用) 5競技 ・引き続き、県事業及び国事業を活用し、専門的指導が必要な部活動に外部指導者及び部活動指導員を配置し、部活動の活発化、生徒の技能向上並びに教職員の負担軽減を図りたい。 ・休日の部活動の地域展開について、令和7年度中に国・県の新たな方針が決定される。これをうけて、伯耆町部活動地域移行協議会で今後の方針を決定する予定。 ・新たな方針等については、広報、HP等で積極的に情報提供を行う。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	(R5)部活動の改革が着実に進められており、今後も学校と地域が連携した現実的な改革が望まれます。 (R5)教職員の負担軽減に取り組んでいただきたい。 (R5)中学校の部活動地域移行について、どこでだれが検討しているのかわからず、地域の者には、どこまで検討されているのか伝わってこない。 (R6)部活動の地域移行→地域展開が協議会でどのように検討されているのか。地域の者には見えてこない。 (R6)町が行ったバルによる運動指導はとても良いと思います。運動部のみならず、成長期にある児童生徒たちに正しい身体の使い方を身につけて自分の心と身体を大切にしてほしいです。 (R6)部活動指導員を確保していただき感謝します。人材不足が言われる中ですが、今後の部活動地域移行にむけて推進をお願いしたい。
		10	特別非常勤講師配置事業	総務学事	地域の専門的知識を有する者を県教委に内申し、特別非常勤講師として配置してもらい総合的な学習の一部やｸﾗﾌﾞ活動を担当させることで、学校教育の充実を図る。	・岸本小4名、八郷小2名、二部小5名の推薦を受け、特別非常勤講師を配置した。各自の専門的な知識や技能を活かし、授業や活動の充実が見られた。 ・引き続き、各学校の実態に応じ、専門的な知識技能を有する地域人材を特別非常勤講師として配置し、授業の充実を図る。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	(R5)専門的な指導がしていただけるのでありがたい。今後も継続を希望する。 (R6)なるべく各学校でのバラつきがないようにお願いしたい。非常勤講師が4校並行しての活動は難しいのか。 (R6)溝口小だけ特別非常勤講師を活用していないのは何故なのか。「授業や活動の充実が見られる」という効果があるのに。

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
1-(1) 知・徳・体のバランスのとれた教育の推進（つづき）	① 確かな学力と規範意識、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実（つづき）	11	伯耆町教育振興会事業 ・人権教育	総務学事	保育所、小中学校、教育委員会事務局及び出先機関で組織を構成し、各種専門部会を設置して、町の幼児・学校教育の研究推進や地域の教育力向上を図る。	・毎年実施していた人権教育研究大会を、R6年度から部会での研修に変更した。また、人権教育主任会を開催し、人権教育推進の方向性についての共通理解及び各学校の人権教育の取組についての情報共有を図った。 ・町人権教育研究大会を、人権教育部主催の研修会に変え、町内の全小中学校で指導事項・内容等の共通理解を図り、共通実践を進めていく。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）人権教育の目的。なぜ実施するのかのベースを授業でしっかりお願いします。 （R6）人権教育部主催の研修会を実施していただくことにより、すっきりした取り組みとなったと思います。 （R6）毎年実施していた人権教育研究大会は、部会での研修に変更した。部会での研修を充実させて、町内の取り組み等の共通理解を図る必要性がある。 （R6）「共通理解を図り、共通実践を進めていく。」とありますが、共通実践は難しいと思います。Ex）実態に応じた実践の工夫に生かす （R6）町人権教育主任会での話し合いが肝になります。また、実際、岸中での人権教育、人権学習は50代周辺の人権学習の思いや意図が担任に伝わりにくい状況。
	② 教職員の指導力向上のための研修の充実	12	小中一貫学力・人間力定着促進事業 ・各校研修会	総務学事	各学校の授業研究会へ外部講師を招聘し、授業の質的な向上を図る。	・各校授業研究会のほか、本事業を活用した外部講師の招へいによる授業研究会等を、岸本小2回、八郷小2回、二部小1回、溝口小3回、岸本中2回、溝口中2回を開催し、学力向上計画を推進した。 ・学力向上推進計画に定める成果指標が達成されるよう、各種学力調査の分析・研修・授業研究会等が校区ごとの一貫した取組となるよう整備する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）中学校区での取組の共有が今後重要になると感じる。 （R6）成果を求められていますが、職員も工夫している最中。
		13	小中一貫学力・人間力定着促進事業 ・教委研修会	総務学事	小中一貫教育・人間力定着の取り組みをより有効なものにするため、教員の授業力や管理職等のﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ能力を高める管理職研修会、学校運営協議会を中心とした学校評価研修会等を開催する。	・小中一貫授業力向上研修会として、「教えて考えさせる授業(OKJ)」をﾃｰﾏとして取り上げ、実施した。 ・学校評価研修会を開催し、学校運営協議会委員とともに、町ぐるみで取り組む教育の推進について見識を深めた。 ・保小中一貫教育の理念に基づいて、各種研修会の企画意図を明確にし、取組に一貫性を持たせるよう整備する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）町教振全般、今後も同じ体制で行くのは大変ではないでしょうか。小中各小教研、県教委が研修の機会を担保しておられます。また、PLANTのシステムも始まり、全国規模で研修ができます。オンライン研修も可能です。反対に各校の学校規模はどんどん小さくなり（岸小は違いますが）職員数も減る方向です。町や中学校区で連携してしなくてはならないものだけ残し、あとは思い切って見直しを図る時期ではないかと思います。
		14	伯耆町教育振興会事業 ・研究大会	総務学事	学校教育の諸課題に対応できるよう教職員の資質向上を図るため、本町独自の研修を実施する。	・町内保・小・中の全教職員等を対象に、保小中を貫く視点をﾃｰﾏとした研修会を実施した。「保小中一貫教育の推進について」「伯耆町学校教育HK30ﾌﾟﾗﾝ3rdｽﾃｰｼﾞについて」の2点について、対象教職員と共通理解を図った。 ・今後のﾆｰｽﾞや社会情勢に対応した研修等を開催し、教職員の知識・技能の向上を図る。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
		15	伯耆町教育振興会事業 ・授業研究会	総務学事	授業研究会を開催することで、個々の教職員の資質・能力を高めるとともに、教職員の協働性を高め学校力の向上・充実を図る。	岸本小3回 八郷小4回 岸本中3回 岸本中学校区合同1回 二部小3回 溝口小3回 溝口中3回 溝口中学校区合同1回 ・学力向上推進計画に定める成果指標が達成されるよう、各種学力調査の分析・研修・授業研究会等が校区ごとの一貫した取組となるよう整備する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）職員の減少、職員構成のアンバランスさ、働き方改革等の課題があり、今後検討していく必要を感じる。

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
1-(1) 知・徳・体のバランスのとれた教育の推進（つづき）	② 教職員の指導力向上のための研修の充実(つづき)	16	伯耆町教育振興会事業 ・生徒指導	総務学事	保育所、小中学校、教育委員会事務局及び出先機関で組織を構成し、各種専門部会を設置して、町の幼児・学校教育の研究推進や地域の教育力向上を図る。	生徒指導担当者会2回、研修会1回等を開催した。 ・第1回生徒指導担当者会 情報交換、夏休みのくらしについて、夏休中の児童生徒向け放送について ・第2回生徒指導担当社会 情報交換、冬休みのくらしについて、冬休中の児童生徒向け放送について ・研修会 鳥取県ﾃﾞｼﾞﾀﾙ・ｼﾁｽﾞﾝｼｯﾌﾟｴﾃﾞｭｹｰﾀｰ 井上仁 氏を講師に招き、「ｹﾞｰﾑに関わるﾄﾗﾌﾞﾙの解決に向けて～ｹﾞｰﾑ依存、言葉の暴力の現状と対策～」をﾃｰﾏに研修を行った。 ・保小中一貫教育としての事業展開につながるよう、最新のﾆｰｽﾞをとらえた各種研修の配置や専門部会による共通理解を行う。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）ビルド＆ビルドにならずに、他の研修と置き換える意味で、生徒指導、アセスメント、ケース会議の運営等についての研修会があるとよいと思う。
		17	学校要請訪問、学校随時訪問	総務学事	各学校の校内授業研究会での指導助言や業参観・授業評価及び学校長への指導助言を目的として学校訪問を実施する。	・校内授業研究会、小中合同研究会に可能な限り参加し、研究推進の進捗を見取るとともに、教職員への指導助言を行うことができた。また、管理職との協議の中で、各学校の研究推進への助言を行うことができた。 ・授業研究会の成果が、学力向上推進計画に定める成果指標達成として現れるよう、取り組みの一層の拡充や目的の明確化を図る。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）教職員の人事関係や学習（授業）面を見聞するだけの学校訪問になっているのでは。施設整備の状況、備品等の活用状況なども大事な問題である。 （R6）負担にならない形でおいでいただいていてありがたいです。
		18	学校計画訪問、行事訪問、講師訪問、本務者訪問	総務学事	各学校の運営状況及び授業実践の把握を行うため、各種訪問を行い、各校の課題改善に努める。	・町教委学校計画訪問 各小中学校1回 ・行事訪問(各式典参列) ・西部教育局学校訪問 各学校2回 ・上記の訪問による各学校教育の見取りをまとめて、還元することができた。 ・教育委員による学校教育の見取りの結果を各学校と共有し、引き続き、学校教育目標の具現化を促していく。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）学校訪問だけでなく、教育委員さんには折に触れて学校に来ていただけるとありがたい。 （R5）フィードバックをしていただいており、学校の雰囲気づくり、授業づくりに役立てております。
1-(2) 保育所・小学校・中学校の滑らかな接続	① 保育所・小学校・中学校 一貫教育委の推進	19	伯耆町教育振興会事業 ・保小中一貫教育	総務学事	保育所、小中学校、教育委員会事務局及び出先機関で組織を構成し、各種専門部会を設置して、町の幼児・学校教育の研究推進や地域の教育力向上を図る。	・専門部会、小中情報交換会を開催し、各校の状況の共有・共通実践項目のﾁｪｯｸや今後の取り組みの確認を行った。また、授業研究会への相互参加による授業改善や保・小、小・中の交流を進め連携を図った。 ・保小中一貫教育としての事業展開につながるよう、保育所と小学校、小学校と小学校、小学校と中学校の交流活動を通して、学習面のみならず各種活動面の連携も推進する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）保小中一貫カリキュラムの認識が低いように感じる。 （R6）保小中一貫教育とありますが、幼児・児童・生徒の基本的な個に対する申し送りは成され、互いに理解はされているとは思いますが、子どもの体力低下と言いながら、この点についての下の年齢層との連携・申し送りは不十分だと思います。連携を密にして、終始一貫した指導体制を望みます。
		20	小中一貫学力・人間力定着促進事業 ・小中一貫関係事業	総務学事	保小中一貫教育ｶﾘｷｭﾗﾑを活かした授業づくりのｽｷﾙを高めるよう、各中学校区で全教職員を対象にした授業研究会等を開催し、授業改善の共通認識の醸成を図る。	・小、中学校教科書採択の結果に基づいて、『保小中一貫ｶﾘｷｭﾗﾑ』を作成した。これに標準学力調査の結果を反映させることで、学力の様相を把握できるよう運用した。 ・ほうき「ひと・まち・未来づくり」ｱｸｼｮﾝﾌｫｰﾗﾑを開催し、伯耆1学習の取組を推進するとともに、地域の中で共有した。R6年度には溝口小学校の取り組みが、県教委により表彰された(ふるさとｷｬﾘｱ教育CM賞)。 ・中学校教科書採択の結果を『保小中一貫ｶﾘｷｭﾗﾑ』に反映させ、効果的な運用を行う。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）ほうき「ひと・まち・未来づくり」3rdステージ（R6～8）。抽象的な表現が多いので、具体的に示せる様、伯耆町らしさ、目指す児童生徒像を更に熟考したい。

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
1-(2) 保育所・小学校・中学校の滑らかな接続（つづき）	① 保育所・小学校・中学校 一貫教育委の推進 （つづき）	21	スクラム教育事業 （保・小・中の児童・生徒交流活動）	総務学事	中学校区での保・小・中が校種の枠を超えてｽｸﾗﾑを組み、一貫性のある教育や各種取り組みを行うことで、学力向上・不登校防止・職員間の情報共有等に寄与する。	小・中交流会、保・小交流会、授業体験交流、合同研究会等の実施による連携強化、中一ｷﾞｬｯﾌﾟの解消、教員間の情報共有等を図った。また、ｽｸﾗﾑ教育に関するまとめ冊子を発行した。 ・岸本中学校区　小中交流会2回　保小交流会8回 ・溝口中学校区　小中交流会3回　保小交流会6回 ・町教振保小中一貫教育部会を中心に、校種間の円滑な接続を目指した取組を推進する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
		22	中学校教員の小学校への乗入授業	総務学事	小中の職員が互いに乗り入れて学習指導することで、中1ｷﾞｬｯﾌﾟへの対応、専門性を生かした授業内容の充実や学習意欲の向上を図る。	・溝口中学校区において、小学校へ音楽科の乗り入れ授業を行い、より専門的な指導力を生かした授業実践につながった。 ・教職員の配置状況を勘案し、可能な限り乗り入れ授業を実施する。	△	継続事業ほぼ達成70%以上又は新規事業達成不十分50%以上	継続	（R5）可能であればやる、そうでなければしない、というような一貫性のないことでは気休めにすぎない。 （R5）可能であれば、今後も継続していただきたい。 （R5）教員不足の中、今後この取組が継続できるかが課題である。 （R6）授業時間数の調整になっていないか。 （R6）ぜひ実施をお願いしたいです。特に6年生に向けての実施をお願いします。 （R6）R8年度、岸中音楽科の八郷小、岸本小への乗り入れ授業を検討中。
	② 保育所・小学校・中学校の滑らかな接続	23	就学支援検討会	総務学事	小中学校就学について、支援が必要と考えられる子どもに対して、関係機関が連携し、環境を整備することによって就学後の学校不適応などの2次障害を防止する。	・早い段階での関係機関による連絡会議開催で、対象児童の状況把握を行ったうえで、接続先職員との観察会、情報交換会、必要であれば、保護者との個別の支援検討会による相談等を経て、就学支援検討を行った。 ・観察記録ｼｰﾄを改善し、視点を細分化したことで、必要な支援についての協議の充実が図れた。 ・全体会では、関連機関との顔合せができた。また、適切な就学、必要な支援の継続について、共通理解や確認ができた。各小中、保幼の機関との連絡会を個別に行うことで、就学に向けた連携のｽﾀｰﾄがきれた。 ・支援の必要な子どもの多面的状況把握のための関係機関の連携に努め、本人・保護者の思いに寄り添った適切な就学支援につなげる。 ・西部就学支援検討会に向けて、関係機関との事前協議をさらに綿密に行う。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）ぜひ継続してもらいたい。 （R5）観察会を含め、詳細な状況の把握、必要な支援の検討につながっている。
		24	伯耆町教育振興会事業 ・就学支援	総務学事	保育所、小中学校、教育委員会事務局等及び関係機関で組織を構成し、就学支援教育充実のための連携推進や小中の小中の特別支援学級の交流活動の推進を図る。	「自閉症・発達障害の診断と評価」について、鳥取県立総合療育ｾﾝﾀｰ院長の配信講座を全体で視聴し、自閉症や発達障害についての基礎的・基本的事項について確認した。 中学校区ごとに保・小・中で情報交換を実施し、保・小・中連携を図った。 ・今後も、長期休業を利用し、実践にいかせる教職員の研修を実施する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
1-(2) 保育所・小学校・中学校の滑らかな接続（つづき）	② 保育所・小学校・中学校の滑らかな接続（つづき）	25	中学校区の児童生徒を語る会	総務学事	小中の連携した支援体制の確立、不登校及びいじめ問題等の未然防止のため、各中学校区児童生徒を語る会を開催し、関係者の情報交換と未然防止のための協議を行う。	・中学校区毎に、児童生徒を語る会(小中学校担当教員、SC、SSW、教育委員会指導主事等参加)を開催し、関係者による育ちを見据えた情報共有と連携した支援体制の構築を協議した。 岸本中校区:年1回、溝口中校区:各学期1回 ・不登校及びいじめ問題等の未然防止、早期発見、早期連携の一層の重要性を再確認し、校区、SC、SSWとの連携を強化していく。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）大変、大切な会であると思うが、コロナ禍が明けてたくさんの会合が復活してる昨今の現状をみて、会の在り方を考えていただくとありがたい。 （R5）お互いが情報共有して進めていきたい。 （R5）中学校の生徒の問題が課題としてあがることもなく、次年度になって伝えられた件がある。何が語られ、何を課題とするのか、頼りない。 （R6）いじめがあって行事が中止になったり、部活の新入部員が減ったりと問題が多々あるようだが、情報共有をしっかりとしてほしい。 （R6）岸中校区の回数が学期1回から年1回に減ったのは、なぜでしょう？1回でも評価に値する成果が見られているのなら、文言として書かれてはどうでしょう。 （R6）大変、大切な会であると思うが、会合がかなりある昨今の現状をみて、会の在り方を考えていただくとありがたい。
1-(3) 人にやさしい学校教育環境の整備	① 人にやさしい学校教育環境の整備	26	少人数学級実施事業	総務学事	小中全学年30人学級の実施によりきめ細やかな教育を推進する。	・岸本小 少人数学級実施(3年） 定員1名増 ・岸本中 少人数学級実施(2・3年） 定員4名増 ・八郷小 複式解消(3・4年) ・二部小 複式解消(2・3年、4・5年) ・上記により、きめ細やかな学習指導、一人ひとりの変化への気づき、速やかな生徒指導の実施、中学校進学への動機づけ等多角的に教育効果をあげている。このほか、学校からは、不登校等の諸問題についても、有用性が認められると報告されている。 ・今後も、少人数学級と複式解消への対応を柔軟に検討する必要がある。 ・また、現在の状況、今後の児童・生徒数の推移をPTA等と共有し、今後の教育環境の在り方について検討を進める。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）岸本小学校を除けば、ほぼ全て、少人数であるが、次の段階について検討を始めるべきではないのか。 （R5）複式学級の解消をしていただけるのはありがたい。今後も継続していただきたい。 （R6）岸本中学校区の生徒増、溝口中学校区の減、今後の学級人数の推移を関係者で共有し、学校教育環境のあり方をしっかり議論しないといけない。 （R6）少人数小学校の、岸本、溝口小との統合を強く希望します。 （R6）児童生徒数への対応は、10年後、20年後を見すえて進めていきたい。 （R6）教員不足がいわれる中、少人数学級を実施していただき感謝いたします。引き続きよろしくお願いします。
		27	スクールソーシャルワーカー活用事業	総務学事	いじめや不登校など児童生徒の問題行動を環境面から解決するために、ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰを配置し、関係者・関係機関が協力して、児童生徒の抱える課題解決にﾁｰﾑで取り組む。	・SSW2名、SSWS2名を配置し、学校・関係機関と連携・情報共有のうえ、問題を抱える児童生徒の個別の状況や問題点の把握・確認、支援方針の確立等、支援を行い課題の解消につなげた。学校や関係機関との多職種連携が強化された。 SSW2人が校区ごとに巡回したり、教育支援ｾﾝﾀｰ相談員をSSWS(ｻﾎﾟｰﾀｰ)として学校へも定期的に派遣したりすることで、よりﾀｲﾑﾘｰな相談活動、情報収集活動を行う。支援会議を通じて、「福祉的視点のｱｾｽﾒﾝﾄ」と「根拠に基づくﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ」の定着を図る。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）関係機関との連携、特に福祉との連携に課題を感じた。 （R6）2名体制になり、心強く思います。大変助けられております。今後ともよろしくお願いします。
		28	スクールカウンセラーとの連携	総務学事	本町のｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ、早期支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ等と県教委雇用のｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰが連携することで、児童生徒の抱える課題解決に向けた支援体制を強化する。	・SSWとSCの勤務日をできる限り合わせる工夫を図り、教職員とも一緒に児童・生徒の状況把握や問題点の確認をおこない、役割分担あるﾁｰﾑ支援が行えた。 ・困難事例や、突発的な事故等の発生時の援助体制の一層の整備を図る。 ・継続事案だけでなく、未然防止の視点からのﾁｰﾑ連携の強化を図る。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
1-(3) 人にやさしい学校教育環境の整備（つづき）	① 人にやさしい学校教育環境の整備（つづき）	29	特別支援教育支援員配置事業 ・早期支援コーディネーター	総務学事	特別な支援が必要となる可能性がある子ども及びその保護者に対し、学校・家庭・関係機関との連絡・調整を行う早期支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰを配置することで、早期からの情報提供・相談会実施など柔軟できめ細やかな対応ができる一貫した体制を整備する。	・LD等専門員や保健師等と連携し、訪問による行動観察や発達検査等から、必要な指導や支援について、保育士や担任等への実効性ある具体的助言指導を行った。 ・保護者への相談会を実施し、発達障がいをはじめ、様々な支援が必要な幼児・児童について、生活上必要な支援の助言や、就学先についての情報提供等行った。 ・早期支援ﾁｰﾑ会議での情報共有を通し、3歳児健診ﾌｫﾛｰからの幼児の実態把握・課題共有に努め、適切な就学支援に向けた具体的連携体制を構築する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
		30	特別支援教育支援員配置事業 ・学習支援員等	総務学事	特別支援学級に在籍する児童生徒の内、日常的に介護等が必要な児童生徒と通常学級に在籍するLD、ADHD、ｱｽﾍﾟﾙｶﾞｰ症候群等の児童生徒に対する学習支援、安全確保等を行うことで担任と児童生徒が安心して授業に取り組める環境を整備し、教育効果を高める。	・学習支援員を配置することで、対象児童生徒の安心できる教育環境を整備するとともに、担任教員の効果的な授業づくりや学級経営に専念できる環境を整備した。 ・学習支援員　岸本小6名 八郷小3名 溝口小2名 二部小1名 岸本中2名 溝口中1名 ・卒業まで継続的な支援が必要となることが多いことや、近年対象児童生徒が増加する傾向にあるため、学習支援員等の確保と、研修会等への参加を促進することで専門知識・技能の一層の向上を図る。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）年々、特別な配慮を要する児童生徒が増えている中、学習支援員の配置は学校現場にとってはとてもありがたい。児童生徒の状況が年度により変わってくるので、学校の実情に応じた配置を引きつづきお願いしたい。 （R6）加配が非常勤講師対応という現状で、学習支援員を配置していただいて、大変ありがたい。 （R6）実態に応じた人数を配置いただき、大変ありがたいです。学習支援員の先生がいらっしゃることで、児童が安心して学校生活を送れています。今後とも、実態に応じた配置をよろしくお願いいたします。
		31	学校図書整備及び学校司書配置	総務学事	各小中学校に司書教諭補助職員を配置し、学校図書館を利用した学習の充実や児童生徒の読書活動推進に寄与する。	・司書教諭補助職員として学校司書を全小中学校に配置し、司書教諭及び学級担任、教科主任等と連携しながら児童生徒の学習を支える学校図書館づくり、読書活動推進に努めた。 ・学校図書ｼｽﾃﾑを全校に導入し、R7年度から運用開始した。 ・児童生徒の学校図書館利用を多面的に見つめ、活字離れの解消につなぐ魅力ある環境づくり、読書活動の推進に努める。 ・学校図書ｼｽﾃﾑを活用した読書機会の増、授業における図書館利用の増に繋げる。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）学校図書館のシステム化を積極的に進めていただきたい。 （R5）学校図書システム導入が、きわめておくれている伯耆町である。補助金をあてにすることでは、読書活動推進は望められない。 （R5）学校司書と図書館システムは、セットでより効果が発揮される。図書館システムの早期導入をお願いする。 （R5）図書館づくりには欠かせませんので、継続配置をお願いします。 （R6）学校司書の方の存在のおかげで、子どもたちが本に親しむきっかけになっている。システムの導入でよりよい図書サービスにつながると思う。 （R6）若い教員が増えている中で、各学年の学習進度にともない、有益な情報を流していただいてありがたい。
		32	校務支援システムの活用	総務学事	校務支援ｼｽﾃﾑを導入し、個々の教職員の持つ様々な児童生徒の情報や指導要録などを発信・受信・共有・一元管理することで、教職員の多忙感解消や教育の資質向上を図る。	・教職員の多忙感解消や教育の質向上のため、県内全小中学校に共通の業務支援ｼｽﾃﾑが導入され、平成30年度より運用開始となった。校務支援ｼｽﾃﾑを活用することで、教職員の業務が軽減された。 ・ｼｽﾃﾑ研修等を重ねて、一層の有効活用を図る。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）校内の事務がかなりはかどるようになってきている。今後はさらに使い方を習熟させたい。 （R6）校内の事務がかなりはかどるようになってきている。今後はさらに使い方を習熟させたい。それに加えて、町職員の掲示板と予定表などの限定的使用が望まれる。

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
1-(3) 人にやさしい学校教育環境の整備（つづき）	① 人にやさしい学校教育環境の整備（つづき）	33	教育支援センター運営事業	総務学事	溝口体育館内に設置した教育支援センターにおいて、不登校等の児童生徒への学習支援や生活指導を行う。また、いじめや友人関係などの悩みを抱える児童生徒・保護者の相談活動を行い、不登校・問題行動等の未然防止を図る。	・通所児童生徒 中学生1人 小学生2人 ・指導員1名、相談員2名を配置 ・毎月定例会を開催しSSWとの情報共有を図り、該当校との連携に努めた。 ・通所生徒の保護者の相談にも寄り添い、関係機関での連携体制の構築を図った。 ・子どもの状況を把握した上での必要な支援について長期的な視点と短期的な視点とを持ちながら、関係機関の一層の連携を図り、子どもの社会的自立をめざした支援に努める。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）「えがお」に通う児童生徒にも町の給食が食べられるシステムになるといいです。 （R6）教育支援センターには、生徒の進路を見据えた関わりをしていただき、とてもありがたく感じている。
		34	就学援助事業 ・要保護、準要保護	総務学事	生活保護、生活保護に準ずる者、非課税・母子家庭等を対象とし、金銭的に生活が苦しい保護者に対し教育費(学用品、給食費)を援助することで、保護者の教育を受けさせる義務の遂行を図る。	・令和7年度認定:75名(48世帯) ※昨年に引き続き、母子、父子家庭が半数以上を占める(40/48世帯)。 ※入学前支給(8名) ・引き続き、金銭的に生活が苦しい保護者に対し、学用品費等を適正に援助する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
		35	就学援助事業 ・特別支援教育就学奨励金	総務学事	特別支援学級に通級する児童生徒の保護者に対し、学用品や給食費を支援することで金銭的負担を軽減し、義務教育の遂行を支援する。	・令和7年度認定:32名(30世帯) ※世帯の収入・世帯員により Ⅰ~Ⅲ区分に分ける。なお、区分により支給対象経費が異なる。 ※支給額は、要保護・準要保護の2分の1程度。 ・引き続き、特別支援学級に通級する児童生徒の保護者に対し、学用品費等を支援し、金銭的負担の軽減を図る。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
	② 安全安心で質の高い教育を支える教育環境の整備	36	学校施設整備事業	総務学事	老朽化施設や大規模な修繕が必要とされる施設について、長寿命化や安全性の向上等を図り、児童生徒の教育環境を整備する。	・老朽化した施設の改修工事を行い快適な学習環境を整備した。 【主な施設修繕】 八郷小学校相談室改修工事、3階教室改修工事 岸本小学校・八郷小学校　遊具設置設置工事 二部小学校・岸本小学校ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ整備工事 二部小学校敷地内舗装工事 溝口中学校後ろ側校舎解体工事 ・予算等との調整もあるが、安全安心な環境整備のため、引き続き、損傷・劣化・老朽化した施設の修繕を行う。 ・計画的な予算執行ができるよう、3年程度の短期修繕計画策定を検討する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）体育館へのエアコンの設置 （R5）学校間で老朽化の程度の差が大きいと感じる。今後を見据えた対応を検討していただきたい。 （R5）老朽化したから改修では遅すぎる。定期的なメンテナンスの計画がなければ予算化できないのでは？ （R6）優先順位は共通認識としてあるのか。 （R6）耐震工事の際の改修工事から、年数がたち人数も多いことから教室のドア、床材の劣化、トイレの故障等が増えてきている。大規模な修繕が必要な時期に来ている。
		37	小学校施設修繕事業	総務学事	小学校校舎等の損傷・老朽化を修繕し、安全安心な環境を整備する。	・損傷・老朽化した施設の修繕を行った。 【主な施設修繕】 溝口小:教室空調修繕 岸本小:ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ修繕 八郷小:ﾌﾟｰﾙｻｲﾄﾞ防水修繕、職員室空調修繕 二部小:ﾌﾟｰﾙ床面修繕 ・予算等との調整もあるが、安全安心な環境整備のため、引き続き、損傷・劣化・老朽化した施設の修繕を行う。 ・計画的な予算執行ができるよう、3年程度の短期修繕計画策定を検討する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）各校の現状はあると思うが、人数に応じて修繕等、安心な環境整備をしていただくとありがたい。 （R5）複合施設問題で、修繕が止まっている。老朽化している箇所等、早急に対応してほしい。

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
1-(3) 人にやさしい学校教育環境の整備（つづき）	② 安全安心で質の高い教育を支える教育環境の整備（つづき）	38	中学校施設修繕事業	総務学事	中学校校舎等の損傷・老朽化を修繕し、安全安心な環境を整備する。	・損傷・老朽化した施設の修繕を行った。 【主な施設修繕】 溝口中:防排煙制御装置修繕、屋上防水箇所修繕 岸本中:ﾊﾟｯﾄﾘｰｴｱｺﾝ修繕 ・予算等との調整もあるが、安全安心な環境整備のため、引き続き、損傷・劣化・老朽化した施設の修繕を行う。 ・計画的な予算執行ができるよう、3年程度の短期修繕計画策定を検討する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）水質検査では問題なしではあるが、水のにおいが気になるとの声がある。 （R6）溝中の体育館。修繕が必要なところがたくさんあるが、これからこの校舎を使うのかどうなのか？というところを早急に対応して欲しい。 （R6）溝口中学校は校舎がかなり老朽化しており、雨漏り等、修繕が必要な箇所が増えてきている。優先順位を決めながら、対応をお願いしたい。 （R6）プライベートの観点からトイレの扉を一考。
		39	教材、教具、教育備品及び教育施設整備事業	総務学事	各学校における教材・教具・備品の整備を行うことで、多様化する教育に対応する。	・各学校児童生徒数に応じ、管理備品・振興備品の予算配当を行い、必要な教材・教具・備品を整備した。 ・引き続き、必要な備品等を整備し、多様化する教育に対応していく。 ・物価高騰を勘案し、R8年度から備品等に関する予算枠を増額した。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）各校の現状はあると思うが、各校の人数がかなり変わってきている中で予算を再考する時期にきていないだろうか。
		40	学校安全体制整備推進事業	総務学事	小学校において、実践的事例に対応できる学校安全ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱを活用した効果的な安全体制を整備するためｽｸｰﾙｶﾞｰﾄﾞﾘｰﾀﾞｰ2名を配置し、見守り体制の整備・巡回指導等を行う。	・中学校区ごとにｽｸｰﾙｶﾞｰﾄﾞﾘｰﾀﾞｰを各1名配置。定期的に学校・通学路等の巡回、児童・生徒への指導、学校への助言等を行った。 ・今後もｽｸｰﾙｶﾞｰﾄﾞﾘｰﾀﾞｰ2名を配置し、見守り体制の整備・巡回指導等を継続し行う。今後、後継者の人材確保を検討していく必要がある。 ・ｽｸｰﾙｶﾞｰﾄﾞﾘｰﾀﾞｰの取り組みを含めた、学校安全ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの取り組みを紹介する方法を検討する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）スクールガードリーダーがどなたなのか全く知らない。
		41	バス事業担当課との連携	総務学事	ﾊﾞｽ事業担当課と連携をとり、ｽｸｰﾙﾊﾞｽによる通学を、より安全かつ充実するよう運行体制の充実を図る。	・関係機関等と協力し、ｽﾑｰｽﾞなｽｸｰﾙﾊﾞｽ運行体制を確保した。 ・引き続きﾊﾞｽ担当課と連携をとり、ﾆｰｽﾞ等を踏まえた利便性の高い運行体制やﾊﾞｽ利用の際のﾏﾅｰの徹底などに取り組む。大雨等の自然災害発生時や事故等があった場合の対応について、担当課と教育委員会事務局の連携体制を確認する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）今後課題が山積だが、何とか学校運営に支障が出ないようなスクールバスの運用をお願いしたい。 （R6）バスが減り、学校としても苦労です。 （R6）本年度からバスの台数が少なくなり大変な中、できる限りの対応をしていただき、ありがたく思います。ただ、これまでとシステムが変わったことで、これまでになかったようなトラブルもありました。事後、誠実に対応いただきましたが、なるべく未然防止が図っていただき、これまで通り安心安全な通学バス運行をお願いします。 （R6）バスについては、担当者の方に大変お世話になった。 岸小・中が路線を使っているが、その大変さを町内の各小学校にも知っておいていただく必要がある。
		42	ICT環境の整備	総務学事	ICT教育の充実を図るため、設備・ｿﾌﾄ等ICT環境を整備する。	教員支援のためのICT支援員の配置（1名）、導入機器の保守管理・ﾄﾗﾌﾞﾙ対応、ﾌｨﾙﾀﾘﾝｸﾞｿﾌﾄの導入による有害ｻｲﾄｱｸｾｽ制限やｵﾝﾗｲﾝ授業で発生する著作権料支払い（授業目的公衆送信補償金）等により、効果的かつ安定的なICT活用体制を整備した。校内ﾈｯﾄﾜｰｸの改修に向けたｱｾｽﾒﾝﾄ調査を、岸本小学校・溝口中学校で実施した。 ・引き続き、ICT教育充実のために設備等の修繕等、環境整備を図るとともに、教員支援も行う。 ・令和8年度に児童生徒用端末の更新を計画している。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）ICT教育により、子どもたちはより多角的に情報を得ることができ、教育の充実につながっている。 （R6）操作ロック、画面ロックなどの管理アプリが必要。 （R6）ICTを進めるメリット、デメリットを今一度考えて方向を決めなくてはと思う。

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
1-(3) 人にやさしい学校教育環境の整備（つづき）	② 安全安心で質の高い教育を支える教育環境の整備（つづき）	43	防災教育・避難訓練・防災関係計画の充実	総務学事	各学校毎に防災教育・避難訓練・避難計画作成等を行い、災害時等における児童生徒の安全確保に努める。	各学校作成の学校安全計画や危機管理ﾏﾆｭｱﾙに基づき、防災教育、避難訓練等を実施した。浸水水想定区域や土砂災害警戒区域にある学校については、水防法及び土砂法に基づき避難確保計画を策定し、緊急時に備え各小中学校で避難訓練等を実施した。 ・今後は、避難確保計画等に基づく防災・避難訓練などを行い、緊急時の対応能力を高めるほか、PDCAｻｲｸﾙにより計画等の実効性を高めていく必要がある。 ・令和8年1月に発生した地震の対応について、各校の状況を振り返り、情報の共有を図った。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）「浸水想定区域や土砂災害警戒区域にある学校」とは、どこの小学校でしょうか。保護者や地域住民にもしっかり共有させてください。 （R6）中学校区単位で連携を取って訓練（溝口中校区）して下さったり、危機感をもって取り組んで下さり、ありがたい。
		44	学校給食施設管理運営事業	給食センター	安心・安全な学校給食を提供するため、給食ｾﾝﾀｰの適切な管理を行う。	・調理業務等の民間委託を引き続き実施(現契約は令和10年度まで)。 ・各種細菌等検査の実施、清掃・衛生の徹底など。 ・調理委託事業者から報告があった調理備品等の不具合修繕、買い替え。 ・学校給食食物ｱﾚﾙｷﾞｰ対応委員会を開催し、ｱﾚﾙｷﾞｰ対応の問題点等がないか確認を実施。R7年度は事故やﾋﾔﾘﾊｯﾄ事例は生じなかった。 ・学校薬剤師と連携し調理現場の改善に取り組んだ。次年度以降も継続し散り組む。 ・異物混入対応等の危機管理に関するﾏﾆｭｱﾙを整備した。 ・引き続き、安心安全な学校給食提供に支障が出ないよう、事務等を進め、ｱﾚﾙｷﾞｰ対応については、問題点等があれば改善していく。 ・異物混入等の際のﾏﾆｭｱﾙの見直しを行う。 ・公会計化、滞納処理についても引き続き検討していく。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）給食費滞納について、援助のあるご家庭で滞納があるのか。援助のないご家庭での滞納なのか。解消について具体策はあるのか。
		45	学校給食費補助事業	給食センター	給食費の保護者負担を軽減するため、1食につき245円(11月から3月は270円)の補助を実施する。 (1食当り保護者負担額) 小学生100円、中学生150円	・食材の高騰による給食費の値上げに伴い、保護者負担が増えないよう1食あたりの補助額を前年232円から13円(11月から3月は38円)増額した。 ・保護者負担の軽減と安定的な給食の供給ができた。 ・245円/食(11月から3月は270円/食) ・補助額 34,792,509円 ・国の学校給食費無償化の方針を踏まえ、町では令和8年4月から小中学校の学校給食費無償化の方針が決定。その実施準備を行った。 ・令和8年度から国・県補助により小学校の給食無償化を実施し、あわせて中学校も無償化を実施する方針とした。 ・国・県補助の基準額を超える部分と中学校の無償化に係る経費は町負担となる。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）多少の値上げは大賛成。充実した給食を提供してほしい（量、質共に）。 （R6）値上げに際し、補助をいただきありがたく思います。今後ともよろしくお願いします。 （R6）年度途中の値上げは回避してほしい。
		46	食材供給連絡協議会との連携	給食センター	伯耆町内の農業生産者で構成する組織である食材供給協議会と連携しながら、伯耆町産の食材使用に努める。	・協議会との調整会議を概ね月1回開催 ・伯耆町産使用率【鳥取県調査対象の44品目(野菜だけでなく、魚介類等も対象)のみの割合】47.1%（前年度44.5%） ・町内産のみで賄えた主な食材 ｽﾅｯﾌﾟえんどう、ｸﾞﾘﾝﾋﾟｰｽ、ﾋﾟｰﾏﾝ、梨、ﾒﾛﾝ、ﾓﾛﾍｲﾔ、ｿｰﾒﾝかぼちゃ、にんにくの芽、大豆、わらび、菜の花、ﾔｰｺﾝ、ﾚﾀｽ、ｺﾞｰﾔ、ｽﾞｯｷｰﾆ、高菜、ゆず、ｵｸﾗ、大根の葉、青しそ、空心菜、いちご、ｽｲｰﾄｺｰﾝ ・町内産食材の使用率の一層の向上 ・協議会会員の新規加入が若干あるが、その倍以上高齢等で退会される状況。町内生産者の拡大や連携を図り、活発な協議会活動が実現するよう協議会役員会で検討していく。 ・調整会議等の運営も上記役員会で、より実効性のある方法を検討していく。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）44品目中、50%以上を町内産で賄えているということは、伯耆町の強みでもあります。食育と連動して町民全体にも広く知って頂きたいと思います。

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
1-(3) 人にやさしい学校教育環境の整備（つづき）	② 安全安心で質の高い教育を支える教育環境の整備（つづき）	47	伯耆町教育振興会事業 ・学校事務	総務学事	保育所、小中学校、教育委員会事務局及び出先機関で組織を構成し、各種専門部会を設置して、町の幼児・学校教育の研究推進や地域の教育力向上を図る。	・共同学校事務室で取り組む業務の改善と標準的な職務内容を理解し校務運営に参画することを重点目標として、定期的な会合を開催し、共同学校事務室で取り組む事項についての業務分担・調整や危機管理研修として安全点検に関する研修を行った。 ・共同学校事務室として予算執行できるように予算科目の整理を行った。 ・事務改善について検討し、事務の効率化を図ることができた。 ・令和7年度に「伯耆町立学校における学校徴収金会計事務処理要領」を作成し、学用品費等集金の公費外会計の適正化を図った。 ・引き続き、共同学校事務室での業務について更に調整・検討していくことで、校務運営への参画につなげていく。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
2-(1) 学校・家庭・地域・行政の連携	① 家庭・教育の充実	48	家庭教育支援事業	生涯学習	家庭の教育力の向上や子どもたちがﾏﾅｰ・自立心等を身につけるための支援を行う。	・親子で川柳を考えたり、読みあったりすることで家族の絆を深めるきっかけになることを目的とし、家庭の日川柳を募集し、たくさんの応募があった。 ・青少年育成伯耆町民大会の家庭教育講演会を開催し、約120名の参加者が集まった。保小中保護者、地域、教職員等、小中学生を対象に、スマホとの関わり方についての講演会を実施した。各保育所、学校における家庭教育・子育て講演会も開催。 ・各保育所、小中学校、子育て支援ｾﾝﾀｰで保護者対象の家庭教育講演会の実施につとめた。 ・ﾁｰﾑの構成各課での取組や家庭教育支援チームの取組の周知をねらい、広報等で知らせた。各課での取組や家庭教育講演会について情報交換し、取組の広がりにつながる協議を行った。 ・今後も保育所・小中学校、家庭教育支援ﾁｰﾑとの連携を図り、親育ちの観点で取組を推進する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）川柳募集の回数が多すぎるように感じる。参加率向上のための取組、アイデアをお願いしたい。同じメンバーしか参加していない気がします。 （R6）PTA活動や学校との関わりは、親としての学びの場でもある。一人でも多くの保護者に参加いただけるよう推進してほしい。
		49	家庭教育ハンドブック配布及び活用事業	総務学事	小学校1年生から中学校3年生までの発達段階に応じた家庭学習や正しい生活習慣について解説した「家庭教育ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ」を小学校新入学生に配布する。	・子供の自立に向けて、家庭・地域・学校がそれぞれの役割を果たすため、子ども達の健やかな成長を支える家庭教育の一助となるための家庭教育ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸを配布。（令和8年度ｽﾀｰﾄ） ・今の子ども達の実態や課題に対応した内容になるよう改訂版を作成した。小学校1学生への配布の際に、就学前から中学校卒業を見据えた3冊（前期編・中期編・後期編）の紹介を行い、活用を促す。 ・学年懇談・学級懇談で、話題とする事項に関連するﾍﾟｰｼﾞを活用する。 ・令和8年度改訂版を保小中に配布し、周知と活用推進に努め、家庭へ働き掛ける。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）予算は大変であると思うが、担任等や新しく来たものに配布をしていただくとありがたい。
		50	PTA協議会補助金	生涯学習	町内小中学校6校のPTAが合同で活動を行う伯耆町PTA協議会に対し補助金を交付することで、PTA活動の活性化に寄与する。	町と共催で青少年育成伯耆町民大会（家庭教育講演会）を開催したが、講師謝金等必要な経費は町費から支出しているため、補助金の交付実績としてはなかった。 伯耆町PTA協議会との連携体制を継続しつつ、PTA活動の活発化に向け支援する。伯耆町PTA協議会が必要とされる場合は、補助金を交付する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）PTA活動が沈滞化している。学校からの働きかけも弱いのではないか。保護者の協力、支援の必要性を教えることも大事である。 （R5）通常は、町とPTA協議会との共催事業を実施しているとのことですが、PTA協議会として必要な事業ということであれば、町事業は廃止し、PTA協議会にお任せすべきではないでしょうか。 町は、町でしかできなことに特価し、役割分担したほうが効率的ではないでしょうか。

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
2-(1) 学校・家庭・地域・行政の連携（つづき）	② まち全体で子どもを育む地域と共に創る学校の推進	51	学校運営協議会運営事業	総務学事	学校運営協議会制度(ｺﾐｭﾆﾃｨ・ｽｸｰﾙ)を導入し、保護者・地域・学校が一体となって、学校経営に参画し、地域に開かれ、地域に根差した学校づくりに取り組む。 平成30年度からは、各学校運営協議会の調整、学校支援活動の情報提供や地域学校協働本部事業の運営を行うため、CSﾃﾞｨﾚｸﾀｰを配置した。	・全小中学校で学校運営協議会指定及びCSﾃﾞｨﾚｸﾀｰを配置し、各ｺﾐｭﾆﾃｨ・ｽｸｰﾙや地域学校協働本部事業の連携・調整・情報共有等を推進する伯耆町教育ﾈｯﾄﾜｰｸ会議を設置することで、一体的に「地域とともにある学校づくり」を推進することができ、教職員の地域に対する意識改革や地域・保護者の学校経営への理解を深め、積極的な協力が得られるようになった。児童生徒も地域に目が向くようになった。 ・令和6年度に八郷小学校学校運営協議会が地域活性化に貢献したことが評価され、文部科学大臣表彰を受賞した。 ・学校運営協議会の取組を広報誌で紹介するなど、町民へのさらなる周知を行う。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）本町の特徴である「ほうき『人・まち・未来づくり』アクション」や「ほうき『人まち未来』アクションフォーラム」についても事務事業の中に明確な位置づけをしてほしいと思います。 （R5）学校が目標ばかり掲げ、課題となるものをきちんと示していない。協議会が形骸化しないよう努力が必要。 （R5）町の人々に周知をさらに広げる方が良いと思う。 （R6）各学校の状況が大きく異なるところがある。それぞれが課題を明確にして取り組む必要があり、その点のアドバイスが必要。 （R6）町広報誌、伯耆町TVでPRをすすめてほしい。
		52	地域学校協働本部事業	生涯学習	地域住民が教育に関心を持ち、学校の教育活動に関わることで、子どもたちに多様な体験と交流の機会を提供し、確かな学力と人間力を向上させる。大人にとっても、新しい仲間づくり、生きがいづくりなど、地域の絆づくりに繋げる。	①実績　てごﾈｯﾄ(地域の大人→学校・保育所支援):488事業 2265人 ゆめﾈｯﾄ(学校の児童・生徒→地域貢献活動):20事業 356人 ゆめﾈｯﾄ(中学生の休日の地域貢献活動):71事業 246人 ②会議　ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ定例会6回 地域学校協働本部実行委員会年2回 ③研修 全国CSｺﾐｭﾆﾃｨ・ｽｸｰﾙ研究大会 県ｺﾐｭﾆﾃｨ・ｽｸｰﾙ推進研修会兼地域学校協働活動研修会 ・学校支援ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの登録数が増え、より幅広い方との繋がりが実現するよう募集の仕方を工夫して行う。 ・ゆめﾈｯﾄ(中学生のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動)が中学生の主体性や自己有用感につながる活動に発展していくよう努める。 ・地域の方が関わる教育活動が充実するよう、継続してゆめﾈｯﾄの推進に努める。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）地域を生かした体験活動、大変有効と考えます。将来の夢実現の為、いろいろ体験してほしい。 （R5）「ゆめネット」の取組と伯耆ｌ学習がさらにつながっていくことを期待します。小学校高学年の児童も「ゆめネット」で出会えるとよい。 （R6）学校周辺の地域の活動参加となっていないか。集落、自治体単位へ働きかけがあるのか。 （R6）岸本地区の活性化を求む（特に小学校）。 （R6）学校が何を求めているかを出していくことが必要であり、教職員の質の高さが活動に大きく影響する。 （R6）ゆめネットの定期的な募集チラシの配布などにより、取組が充実してきていると感じている。
		53	伯耆町教育ネットワーク会議事業	生涯学習	社会の一員として自立していく児童生徒育成に向け目指す人間像を設定し、その実現に向けた保小中一貫した共通の取組等の協議を行う。	・町で「目指す児童生徒像」を統一し、保育所、学校、家庭、地域、行政が目標とﾋﾞｼﾞｮﾝを共有し、協働して子どもたちを育てる「ほうきひと・まち・未来ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ」を策定。（令和5年～）各学校運営協議会で周知し、学校運営の改善や充実に向けた取組を行った。 ・山口地域連携教育推進協議会代表ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰを招き、まちぐるみで取り組む・ｺﾐｭﾆﾃｨ・ｽｸｰﾙの推進について研修を行い、各学校運営協議会で3rdｽﾃｰｼﾞ「地域貢献活動の充実」に向けた協議、活動の実現を図った。 ・「あいさつの響きあう町　伯耆町」の取組を推進するために、学校・保護者だけでなく、より広く地域住民と目標を共有する取組を進めた。→　ﾁﾗｼ、ﾎﾟｽﾀｰ、広報紙、防災無線、のぼり旗等の広報活動を工夫しながら、効果を上げた。 ・ほうき「ひと・まち・未来ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ」が保小中、家庭、地域で共に進めていけるよう、周知に努める。 ・ﾌｫｰﾗﾑや広報により、学校や子どもたちの取組を知ってもらう機会を充実させる。 ・引き続き、関係機関、地域住民にあいさつ運動を広げていくために、実施状況を把握し、町全体で取り組んでいく。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）「あいさつの響きあう町・・・」は、一部で努力された学校もあるが、全体としてみれば低調ではないか。広がっていない。 （R6）会議の回数が少なく、意味がないと思います。 （R6）年2回開催したネットワーク会議の状況を記載されるべきと思います。

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
2-(1) 学校・家庭・地域・行政の連携（つづき）	② まち全体で子どもを育む地域と共に創る学校の推進（つづき）	54	子供の体験活動事業	総務学事	各学校で独自に、地域学校協働本部と連携し、地域の協力を得ながら、体験活動を実施する。	主な活動 〇作物・米・花栽培 〇遠足の協力〇学習の支援 〇ｽｷｰ教室等 ・学校の教育課程と関連させた活動に地域の方々を巻き込んでいけるよう、学校運営協議会や学校支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰと引き続き連携して事業実施する。 ・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの方への健康・まちづくりﾎﾟｲﾝﾄ活用を検討する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）何かをしていこうという地域の方はおられるが、その活動がすべてボランティアではどうなのか。多少の補助金が必要ではないか。
		55	放課後子供教室	生涯学習	子どもたちの放課後の居場所づくり・保護者の就労支援のほか、子どもたちが安心・安全に過ごしつつ、異学年交流・地域の大人との交流や体験活動などを通じて、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力や地域のつながりを育む。また、放課後児童ｸﾗﾌﾞとの連携も図り、一体型の取組を進める。	実施状況(R7) ・溝口小放課後子供教室 週3回(月・火・木) 80回 ・岸本小放課後子供教室 週3回(火・水・木) 89回 主な活動 ・体力づくり、全員遊び、学習、読み聞かせ、工作等 ・季節を重視したﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ、指導者の得意分野を生かした指導の工夫等 ・ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬによるｲﾍﾞﾝﾄの開催(地域楽団によるｺﾝｻｰﾄ、木工教室、木村研さんによるｶｰﾄﾞづくり等) 一体型の工夫 ・児童ｸﾗﾌﾞ指導員との連携による教室の開催 ・安全管理ﾏﾆｭｱﾙの活用と安全面を十分に配慮した活動。(熱中症対策等) ・指導する人材の確保と指導体制の充実(情報共有による活動状況の把握と改善に向けての協議)。学期1回程度の外部指導者によるｲﾍﾞﾝﾄを開催する。 ・ﾏﾁｺﾐによる欠席連絡を継続し、連絡の徹底を求めた。指導者との連絡を意識して行い、運営の改善を図る。 ・児童ｸﾗﾌﾞとの連携のあり方については、引き続き検討する必要がある。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）ボランティアを活用した教室を取り入れていったらどうでしょう（特に溝小）。 （R6）産業課がかかわる木工教室については、やはり、片方の学校のみで実施というのは見直しの時期ではないでしょうか。 （R6）普段の活動だけでない取り組みもされていて、子どもたちが本物に触れる時間を持つことができた。
		56	伯耆町教育振興会事業 ・地域教育	総務学事	保育所、小中学校、教育委員会事務局及び出先機関で組織を構成し、各種専門部会を設置して、町の幼児・学校教育の研究推進や地域の教育力向上を図る。	ほうき「ひとまち未来」ｱｸｼｮﾝﾌｫｰﾗﾑへの参加を積極的に呼びかけた。各学校運営協議会にも協力を得て参加を募った。保小中・家庭・地域が目指す子どもの姿に向けて協働するための「ほうきひと・まち・未来ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ」の周知もいろいろな機会をとらえて行った。 「地域の資源を知るための事業」として、新規採用職員等を対象にふるさと巡り（岸本地域）研修を実施した。 ・ｱｸｼｮﾝﾌｫｰﾗﾑの開催も引き続き行い、地域の方への周囲を行う。社会に開かれた教育課程の実現に向け、各学校運営協議会の取組の推進も引き続き図る。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）ふるさとめぐりはとてもよいですが、開催の時期は一考されてもよいかと思います。（体調不良者が出る前に）
2-(2) みんなで取り組む青少年の健全育成	① 「共育」「見守り」環境の整備	57	青少年育成伯耆町民会議運営支援	生涯学習	地域全体で青少年の健全育成の推進を図ることを目的に、町民会議を支援し各種事業を行う。	・委員会の開催(2回) ・青少年育成伯耆町民大会を、1/24に開催。 ・町民あいさつ運動の実施(4回) ・ﾏﾅｰｱｯﾌﾟさわやか運動参加。 ・少年を守る店啓発事業(24店舗) ・「家庭の日」川柳の募集(応募数782点) 「家庭の日」川柳について、入選作品(32点)をCATVで放送するなど周知を図った。 ・通学合宿を実施。 ・青少年育成伯耆町民会議の活動を町民に広報やHPで周知していく。 ・県青少年育成推進指導員の更新時期、候補者の検討が必要。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
2-(2) みんなで取り組む青少年の健全育成（つづき）	① 「共育」「見守り」環境の整備（つづき）	58	高校生サークル （(旧)高校生ユースセミナー）	生涯学習	町内の高校生でｻｰｸﾙを組織し、地域貢献活動や事業の企画・運営を通して、地域愛や自主性・責任感を高め、まちの将来を支えるﾘｰﾀﾞｰの育成を図る。	サークルのメンバーが徐々に集まり始め、交流の場となっている。また、地域のイベント等に積極的に関わり、地域活性化に貢献した。 ・「伯耆」から連想する箒の英語「Broom」と花が咲く「Bloom」をかけ合わせて「ブルーム」と命名した。 ・溝口保育所ひろびろ園庭大作戦（除草作業）6月29日 ・沖縄県読谷村教育交流（沖縄県）8月1日～4日、（伯耆町）1月30日～2月1日 ・よるの図書館（溝口図書館）8月10日 ・企業講話（㈱やまさと屋）矢田貝邸（サークル企画）8月12日 ・町民音楽祭出店（鬼の館）8月31日 ・NIBUフェス出店（二部小）10月12日 ・超民運動会（町民運動会溝口地区大会）（町民溝口体育館）11月23日 ・溝口公民館祭り出店（溝口公民館）3月21日 ・歓送迎会（前田商店）3月27日 ・卒業前の3年生を対象にサークルのメンバーが加入案内をした。（岸本中、溝口中）3月9日 ・JR岸本駅・伯耆溝口駅を利用する高校生に加入促進のチラシを配布し、駅構内にポスターを掲示した。 ・現在加入者7名+OB1名 ・引き続き、イベントやサークルのメンバーを通して加入してもらえるように更なる繋がりづくりやPR活動を行う。	△	継続事業ほぼ達成70%以上又は新規事業達成不十分50%以上	改善・見直し	（R5）駅でチラシの配布、ポスターの掲示等は、全く意味が無いと思います。直接話をし、意味等をしっかり伝えないと、メンバーは集まらないと思います。もっと色々な力を借りるべきと考えます。 （R5）サークルを組織することが目的ではなく、何を求められているのか、具体的な活動や目標を示していくことが必要ではないのか。中学で育成しておきたい。 （R5）町内に高校がなく、米子市または日野町の高校へ通学する子どもがほとんどのため、メンバー集めは大変だと思います。 中学生の部活にボランティアサークルを立ち上げ（既にあるのかもしれませんが）、続けたい人は続けられることとし、年齢制限なしで高校生、大学生、就業者など、様々な年代の人で組織することで、将来は運営自体をお任せしできるようになるといいと思います。 （R5）忙しい高校生活を送る中で、ただ漠然とサークルを相談しようとしても難しいのでは？この活動をするメリットを与えてあげないと関心を持たれないのでは？ターゲットを高校生に絞らず、含める形で枠を広げてはどうでしょう。 （R5）活動を復活させる為に、今、町や教育委員会が行っている事業の何かを精査して、高校生に任せてみてはどうでしょうか。 （R5）「ゆめネット」を通じた子どもたちの地域貢献の取組が、高校生へとつながっていってほしい。 （R6）例年苦戦している事業。高校生サークルの組織が街のリーダーの育成に繋がっているか疑問が残る。 （R6）高校生というワクでの募集では集められない。何をしたいのかを先にもってくる方がよいのでは。中高生が何を求めているのか！ （R6）中学校時代の取組に続いて、更に高校生になってもより広く、より深く地域に目を向ける取組が始まっている。今後の展開に期待したい。 （R6）現在岸中のボランティアクラブが立ち上がりCS委員が窓口となり推進している。課題としてクラブ員の保護者との意見調整が出てきている。今後、高校生サークル化につなげたい。 （R6）今（高校生の時代）は、あまり地元に対する意識は高くないかもしれないが、行く行く芽生えてくると思って種まきしたい。

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
2-(2) みんなで取り組む青少年の健全育成（つづき）	② ふるさとを支える青少年の育成（つづき）	59	子供の体験活動事業	各公民館	夏休みを中心に、学校、地域と連携し、子どもたちを対象に自然体験、創作活動等多様な学習機会を提供する。 事業の企画にあたっては、町内の関係機関と調整し、保護者への案内も一つの冊子で行い、好評を得ている。	（岸本公民館） ・学校、地域、公民館教室等の連携をもとに、自然体験、文化活動などの体験を通して子どもたちの協調性や社会性の醸成を図った。 ・夏休み体験事業は公民館教室体験事業（3教室3事業）や公民館主催事業の巣箱作り、ｱﾕ友釣り体験、米子高専出前講座を実施し、61名の参加があった。 ・土曜日のお楽しみでは、1回の開催で21名の参加があった。 （溝口公民館） ・学校・地域・公民館教室等の連携をもとに、自然体験、郷土学習、文化活動などの体験を通して子ども達の協調性や社会性の醸成を図り、強くたくましく生きる力を持った子どもの育成を図った。高齢者教室の学園生や公民館各教室・同好会、また地域の方々の協力で、世代間交流を推進した。 夏休みお楽しみ事業14(前年11)事業を実施し、210(前年126)名参加があった。冬休みのお楽しみ事業2(前年1)事業を実施し、11(前年21)名の参加があった。土曜事業4(前年4)事業を実施し、78(前年68)名の参加があった。また、中学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱも2人の参加があった。 （二部公民館） ・学校・地域・公民館教室の連携をもとに、自然体験、ものづくり活動、地域歴史体験などを通して、子どもたちの協調性や社会性の醸成を図ることができた。 ・森のようちえんの子どもたち・保護者及び二部地域で活動している団体(だんだんﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄなど)と協力し事業を実施した。 ・夏休みの事業 実施回数：16　延べ参加人員：504名 （日光公民館） ・学校・地域・公民館教室等の連携を基に、自然体験や文化活動などの体験を通じて、子どもたちの協調性や社会性の醸成を図ることができた。 ・土曜事業(1回・3名)、夏休みのお楽しみ事業(1回・4名)を実施した。 ・溝口小学校の「冬みつけ」(1回・35名)では添谷産ﾊﾟｲﾔ入りの豚汁の提供をするとともに地区住民の参加も募った。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	(R6)居住エリア外の公民館へ足を運ぶ（交流・人流）ことができればいいのでは (R6)会場までの移動手段の確保が必要。参加したくてもできないという子どもは多数いる。 (R6)公民館で地域の子どもの放課後を過ごせるようなイベントや同好会が増えてくるとよいと思う。
						（全体） 参加申込の受付方法を、とっとり版電子申請に変更する。従来の電話受付と異なり、一度に複数の申込ができないため、申込の機会の公平性が確保される。 （岸本公民館） 人気の高い事業については、定員を増やすなどの工夫をする。 （溝口公民館） ・講師の高齢化による講座開設の困難が生じている。 ・すべての施設が電子申請できるようにする。人気の高いものは抽選も行う。 （二部公民館） ・地域住民・子ども・保護者・学校など連携した事業の実施ができており、引き続きこうした連携事業を推進。 ・4館合同の事業を継続していき、子どもたちの交流を図る。 ・工作教室など、体験のできる講座を引き続き開設する。 （日光公民館） ・地区住民や日光地区協議会と連携し、日光の特色を生かした事業内容を工夫するとともに、内容を見直しながら無理の無い取組を検討をしていきたい。				

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
2-(2) みんなで取り組む青少年の健全育成（つづき）	② ふるさとを支える青少年の育成（つづき）	60	二十歳を祝う会 （（旧）成人式）	生涯学習	明日の伯耆町を担う若者たちが、社会人として新たなｽﾀｰﾄを切る節目に、二十歳を祝福し激励する記念式典を開催する。	開催日:8月15日(金) 会場:鬼の館 対象者:92名／参加者69名 式典の様子を収録し、後日動画配信ｻｲﾄで配信を行った。 記念品:大山久古窯記念マグカップ ・記念品について、ﾌｫﾄﾌﾚｰﾑを変えた方がいいという意見が出ており、令和7年度は大山焼久古窯のﾏｸﾞｶｯﾌﾟへ変更した。ﾏｸﾞｶｯﾌﾟは地元への関心・愛着を醸成するため、またこれからの伯耆町を担う若手陶芸家に記念品を依頼することにより、文化芸術振興を支援するため。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）正月に行うのは難しいのか。 （R6）高校生サークルなど、地域の活動団体も受付でアピールするとよい。 （R6）出席者の割合があるとよいと思います。新しい記念品の選定の背景は？（伯耆町のものであることのほかに、若者の意見等が反映されているのでしょうか？）
		61	通学合宿事業	生涯学習	「青雲寮」で子ども達が共同生活を行いながら通学することにより、子ども達の協調性や社会性を高めるとともに、親への感謝の気持ちを養うよう努める。	3泊4日の期間、通学合宿を実施した。実施後のｱﾝｹｰﾄ結果より子ども達だけで過ごす過程で感謝する心や自信をつけた児童が多かった。また事前にｽﾀｯﾌ説明会を開催することでねらいなど共通理解が図れ、ｽﾑｰｽﾞに事業を運営することができた。 実施日:9月28日(日)~10月1日(水) 参加者:18名 ・ｽﾀｯﾌの確保が難しい。今後の継続的な事業の実施のためにも募集時期等について引き続き検討する。 ・配慮の必要な児童(不登校・発達障害・ｱﾚﾙｷﾞｰ等)への対応方法について細かなところまで事前に共通理解を図る。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）以前はもう少し規模が大きかった。スタッフ確保が難しいのは事実だが、何とかして拡大できたらと思う。 （R6）スタッフの確保は横のつながりで広げてもらう。反省点を活かして末永く続く事業にしていく。
		62	読谷村教育交流	生涯学習	沖縄県読谷村と伯耆町の子どもの交流を通じて、それぞれの伝統文化に触れるとともに、子どもの健全育成に寄与する。	防災無線等により周知、町内各小学校の該当学年に要項・申込書を配付し参加者の募集した。また、読谷村・伯耆町で連携し、小学生の相互交流を行い両町村の教育交流を推進を図った。 ・夏の交流事業8/1～8/4 児童17名、高校生ｻｰｸﾙ2名 読谷村渡慶次自治会子ども会との交流、自然体験（海）、美ら海水族館見学 民泊や文化交流を通して異文化を学ぶとともに、改めて伯耆町の文化、風土を学ぶきっかけとする。また、高校生ｻｰｸﾙの活動として事業参加を検討し、身近な指導者として活躍の場を提供する。H26読谷村との協定に基づき小学生の相互交流を主に事業実施。子どもの食物ｱﾚﾙｷﾞｰは近年増加傾向にあり、参加要件の検討が必要。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）この交流は町民に周知され、期待されたものになっているのか。小・中・高を均等に分け、中・高生を中心にしたのにすべきだと思う。 （R5）今後も継続して教育交流が発展する仕掛けがいるのではないか。 （R6）10歳から18歳程度の幅のある年齢での交流がいいのでは。交流活動が地域に広がらない。
3-(1) 心豊かな生活を創る学びの推進	① 生涯学習の推進	63	公民館改修又は空き公共施設の有効活用	生涯学習	溝口中学校特別教室棟の老朽化のため改修が必要な状況のため、調理教室を青雲寮に移転することで施設の有効活用を図るよう、令和2年度に改修工事を完了した。	学校の授業、PTA、ｽﾎﾟ少、通学合宿等で活用した。 引き続き学校教育、社会教育の活用の場として有効活用を図る。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
3-(1) 心豊かな生活を創る学びの推進（つづき）	① 生涯学習の推進（つづき）	64	生涯学習支援事業（各種教室・講座の開催）	岸本公民館	年間を通し、各年代を対象に、それぞれの地域性を把握した上で、多様な学習機会を提供した。 また、地区の住民の皆さんには、様々な学習活動を展開することで、生きがいづくり、交流やまちづくりにも協力していただいている。	・松栄学級(高齢者学級、受講生41名)は、4月に開講式を行い、年8回開催することができた。延べ260名の参加があった。 ・成人講座は盆踊り講習会を2回開催し、50名の参加があった。 ・家庭教育支援講座は、親子写真教室（植田正治写真美術館ﾌｫﾄｽｸｰﾙ参加）を開催し、11組21名の参加があった。 ・八郷地区の住民に対し、生涯学習機会の提供を図るため、出前公民館として八郷小学校特別教室を会場に、成人講座を企画した。「思い出を残そう　かんたん自分史講座」と題して参加者を募集したが、参加者がなく中止した。 ・松栄学級の受講生数は、平成30年度から35名程度で推移しているが、ｺﾛﾅ禍明けとなった令和5年度に増加に転じ、令和7年度は41名となった。ｱﾝｹｰﾄを反映し、町外研修や参加してみたくなる講座を実施する。 ・出張公民館・図書館は、八郷小学校を利用していることもあり、平日の限定された時間の開催で、会場までの交通の便などに問題もあったと考えられる。八郷文化展への協力など実施方法を検討する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（各公民館共通） （R5）若中年層（20代～60代）いわゆる現役と言われる方々は、仕事でなかなか公民館に足が向かないので、その世代でも参加できる曜日（土・日・祝日）、時間帯（19時以降）の教室や講座を充実させてはいかがだろうか。 （R6）地域住民にとっての人との出会いの場、生涯を通じて共に学びあっていく場になっている。
				溝口公民館		・貴寿美学園(高齢者教室)　町内外研修　計11回(昨年11回)開催　延べ344名(昨年306名)参加。高齢者へ他機関と連携して様々な分野から学びの場を提供し、生きがいや健康づくりと合わせ、他の公民館との交流促進を図った。 ・成人講座として手作り教室を6回(前年6回)開催し、延べ102人(前年83人)の参加があった。・家庭教育事業として4事業を開催し57人の参加があった。 ・通信の掲示等で活動の様子を発信するなど、工夫して呼びかけを行っていきたい。学園生や住民のﾆｰｽﾞを捉えながら、学びの多い研修・講座を企画していく。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
				二部公民館	年間を通し、各年代を対象に、それぞれの地域性を把握した上で、多様な学習機会を提供する。 また、地区の住民の皆さんには、様々な学習活動を展開することで、生きがいづくり、交流やまちづくりにも協力していただいている。（つづき）	多々楽学園:会員数35人、事業実施回数10回、延べ参加者数97人 女子学級:会員数47人、事業実施回数9回、延べ参加者数72人 ・地域住民・子供・保護者・学校など連携した事業の実施ができている。 ・4館合同の事業を継続していき、子供たちの交流を図る。 ・工作教室など、体験のできる講座を引き続き開設していく。引き続き会員等のﾆｰｽﾞを把握しながら、学びの多い研修・講座を企画していく。 ・会員数はいずれも横ばい傾向であるが、既会員の呼びかけや、地域での呼びかけを行い、多くの地域住民に参加いただけるよう努力していく。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
				日光公民館		・日光学園(高齢者教室 受講生24名)は、町外研修や人権学習・健康講座など計7回延べ107名の参加があった。 ・ふるさと学級では、添谷産のﾊﾟﾊﾟｲﾔを使った豚汁やそば打ちに取り組んだ。2回37名の参加があった。 ・日光学園生の高齢化により会員が減少傾向だが、声掛けにより参加者の減少に歯止めをかける。 ・日光学園生以外の参加を促すため、地区住民に行事を周知していく。 ・住民ﾆｰｽﾞに合った魅力のある事業内容を検討していく。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
3-(1) 心豊かな生活を創る学びの推進（つづき）	① 生涯学習の推進（つづき）	65	高齢者教室交流事業	溝口公民館	各公民館の高齢者教室合同研修会の開催により、日頃の学習成果の発表を行なうと共に、相互の親睦と交流を深める。	・伯耆町内の4つの公民館合同の研修会は、講演、交流会のみ実施 参加者80名　開催日:7月4日（金）　会場:鬼の館 ・4公民館の高齢者教室学級生寄稿による文集「だいせん」を作成・配布 作成部数 230部 出筆者18名 ・高齢者学級の役員で構成する「合同役員会」を開催により、企画立案を図る。参加型の講演により、参加者の満足度が向上。4公民館協力して継続実施する。 ・文集「だいせん」の作成は、学園生に負担感がないよう配慮する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
		66	社会教育委員	生涯学習	社会教育の推進のために法に基づく委員を委嘱し、社会教育施策等について、事業計画・事業実施結果等の説明や意見聴取を行い、計画の推進・事業の見直しなどを行う。	・社会教育委員会開催(2回) ・社会教育に関する政策等について意見聴取を行った。 ・県主催の研修会など、独自に勉強していただく機会の場を提供する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
		67	生涯学習まちづくり推進事業	公民館	生涯学習に関する各種学習情報や発表の場を提供することで、生涯学習への参加を支援する。	・CATV、町広報等を活用しての情報提供、学習相談 ・出張公民館・図書館は、八郷小学校を利用していることもあり、平日の限定された時間の開催で、会場までの交通の便などに問題もあったと考えられる。八郷文化展への協力など実施方法を検討する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	(R5)住民が自然に集まってくるような、サロンとしての場を設けるとよいのでは。住民同士の出会いの場が必要では。 (R6)イベントや勉強会など興味深いことをされているが、周知されていない気がする。周辺の自治体の情報も含め、西部エリアで盛り上がっていけるとよいのではないでしょうか。
		68	社会教育主事等の育成	生涯学習	生涯学習事業の推進を図るため、社会教育委員・社会教育主事の資質向上及び新規資格取得者の育成に努める。	・西部市町村の社会教育主事等で構成する西部地区社会教育担当者研究協議会及び西部地区社会教育協議会に参加し、情報交換や共同事業を実施した。 ・資質向上のため各種研修会に参加するとともに、事業の企画立案を行い、経験を積むことができた。 ・今後も継続して研修会等に参加し、資質向上や情報交換に努める。社会教育主事は1名発令されている。計画的に新規の社会教育主事を育成する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	(R5)役場内で計画的に育成ができているのだろうか？ (R6)社会教育士を増やして、理解者を増やし、事業や町づくりをさらに充実させられないか。
		69	地区公民館との連携	公民館	地区公民館との連携を強化するため、公民館定例会(各館長と生涯学習室職員が参加)を開催する。	・生涯学習室と各公民館で定例会(月1回開催)を開催し、行事内容の打合せや業務内容などの相互調整により、円滑な業務連携を行うことができた。 ・情報交換等により、有効な事業を他の公民館も実施するなど、良好な連携ができており、継続実施する。また、小中学校を活用した公民館活動について、学校運営協議会などで検討し、学校と地域が連携した取り組みを推進する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	(R6)八郷地区に中核となる公民館の建物がないのは、残念です。地域との連携を深めるにあたって、ここに行けば触れ合えるという場所がないのは、厳しい状況です。せめて、八郷地区だけの放送設備があれば、子どもたちから地域の皆さんに呼びかけができます。なんとか設置していただけないでしょうか。(小さい地区ごとの放送整備はあると聞いていますが、そこを全部回らないといけないとなると大変なことです。)

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
3-(1) 心豊かな生活を創る学びの推進 （つづき）	②読書活動の推進	70	図書館管理事業	図書館	・「読書活動」が大人から子供まで生涯学習の基盤になることから、すべての世代に向けた事業を展開し、少しでも多く「読書」に親しむ環境づくりに努める。特に「読書」が子どもの脳の発達に影響することや認知症予防に影響を与えるという脳科学の見地から、子どもの読書習慣構築の支援や充実を図る。	・読書活動を推進するため、図書館来館の契機となる事業を展開した。 5月･･･子ども読書推進ｲﾍﾞﾝﾄ 10月･･･図書館へ行こうｷｬﾝﾍﾟｰﾝ 11月･･･秋の読書週間ｲﾍﾞﾝﾄ 12月･･･ｸﾘｽﾏｽ関連ｲﾍﾞﾝﾄ 1月･･･年始お楽しみｲﾍﾞﾝﾄ ・図書館から遠い場所にあって、図書館を活用したいと希望する地域に図書を届けることを目的として「出前図書館」を活用してもらう。希望する集落に届ける。 ・二部公民館、日光公民館の図書室の利用を進め、貸出ができるようにする。 ・休館日について、長期間とならないよう日程を調整する。 ・除籍を進め、リサイクル市以外でもリサイクルコーナーを設け、町民の皆さんに還元する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）町立図書館の収蔵能力の強化が必要である。閉架書庫、開架書棚の整備が必要である。 （R5）語彙が増えるイベント。おすすめの本を各学校においてみる。 （R5）大人から子どもまで読書活動を促進する取り組みをされていると思う。継続実施していただけると大変ありがたい。 （R6）町立で一つの図書館の設立はできないでしょうか。 （R6）春休みや5月の連休等に図書整理等で休館になるが、児童生徒の利用促進のためには開館したほうがよい。 （R6）閉館時間をもう少し遅くできると利用できる町民が増えると思う。毎日でなくてもよいので、遅くまで図書館を開館できないか。
		71	図書館振興事業	図書館	・利用者のﾆｰｽﾞに応えるという図書館ｻｰﾋﾞｽだけでなく、親しみやすく、かつ開放的な施設として、また町づくり、人づくりに役立つ施設として、新規事業を加えながら、各年代への読書推進に努める。特に子供たちの読書活動の推進や利用しやすい環境づくりに向けて各種事業を行う。	(1)子育て支援事業 ・ﾌﾞｯｸｽﾀｰﾄ事業（年6回）、ﾌﾞｯｸｾｶﾝﾄﾞ事業、ﾌﾞｯｸｻｰﾄﾞ事業、にこにこおはなし会、乳幼児出前おはなし会、保育施設への本の配送 ・家庭教育・子育て支援ﾁｰﾑとの連携、読み聞かせの効用・ｽﾏﾎ弊害等啓発 (2)学校支援事業 ・団体貸出し及び本の配送　・施設見学、職場実習受け入れ ・学校図書館支援ｾﾝﾀｰとしてのﾚﾌｧﾚﾝｽの確立 ・町教振図書館部会との連携により、各学校における図書館教育の充実支援 ・町小中学校共通年計の作成（県立図書館と協力）指導案の作成 ・学校へのｼｽﾃﾑ導入に伴う研修の充実（蔵書点検、相互貸借等） （3）読書活動推進事業 ・こどもの読書週間事業　・秋の読書週間事業 （4）高齢者支援事業 ・あたまｲｷｲｷ音読教室　・高齢者福祉施設への本の配送　・出前図書館 （5）広報事業 ・図書つうしん発行　・町HP掲載 ・CATV「とっておき図書館」ｺｰﾅｰの充実 （6）研修事業 ・鳥取県図書館大会への協力　・県立図書館主催研修参加 （7））検索機器導入（岸本図書館） ・農文協ﾃﾞｰﾀ(ｱｰｶｲﾌﾞ）検索 （各館独自事業） 【溝口図書館】・布絵本ちくちく教室開催(24回) ・図書館らしい事業づくりとは、おはなし会、読み聞かせｺﾝｻｰﾄ、音読教室等、図書館資料を活用した事業であると考え取り組んでいる。また、子供の読書活動推進は、子育てに直結している。啓発活動の一環として、読み聞かせの重要性やｽﾏﾎの弊害などを保護者に啓発することも公共図書館の重要な役割であると捉え、今後も関係課等と連携を図りながら、子育て支援に積極的に参加していく必要がある。 ・布絵本ちくちく教室では会を重ねるごとに本としての多数の作品が完成している。布絵本は乳幼児が触っては遊ぶことに特化した知育玩具であるので、町内の保育施設に貸し出したり、利用者さん個人に貸し出したりするなど、有効活用を検討していく。 ・学校のニーズに合わせて、図書館としても授業に活用できる資料を新たに選書し、ﾚﾌｧﾚﾝｽに備えていく。また、図書ｼｽﾃﾑの導入により、学校司書、司書教諭の相談を受けることが増加すると見込まれる。図書館職員の研修を図りながら、学校図書館支援ｾﾝﾀｰとして機能を整備する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）図書館へ行くことの楽しみ。本を読む楽しさを支えてくれる図書館。段々と足を向ける人も増えている様に思います。文化活動の基点として活動の拡大を望みます。 （R5）子どもや高齢者の取り組みは充実していると思うが、やはりここでも若中年層への対応が薄く感じる。子育て、現役世代も読書をする余裕と機運を仕掛けてもらいたい。 （R5）LINE、インスタ等を利用した情報提供を検討してほしい。学校図書館と連携したデジタル化を検討。 （R5）移動図書館車の導入は是非進めてほしい。ボランティアの活用も考えていただきたい。

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
3-(1) 心豊かな生活を創る学びの推進 （つづき）	②読書活動の推進（つづき）	72	図書館協議会委員	図書館	・図書館事業の推進のために法に基づく委員を委嘱し、事業計画・事業の実施結果の説明や意見聴取を行い、計画の推進・事業の見直しなどを行う。	・図書館協議会を年3回開催し、委員の方から意見を聞くことができた。計画推進の後押しをしていただくことができている。ご意見をもとに、利用しやすい図書館にするために館内の環境整備を行うことができた。 ・町内の読書活動において地域差が存在することから、希望する地区に「出前図書館」を行っている。図書館協議会では、さらに発展した事業として移動図書館車の導入の意見を引き続きいただいているが検討には至っていない。協議会で出た意見をもとに、引き続き利用しやすい館内環境の整備を行う。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
3-(2) 人権尊重のまちづくりの推進	① 人権尊重のまちづくりの推進	73	人権教育推進事業	人権政策	人権教育推進を目的に、人権教育推進員を配置し、人権に関する諸問題を学び・理解していただくための各種事業を行う。	人権教育・啓発活動の企画運営及び、各種学習会を実施した。 ・ひまわりｾﾐﾅｰ開催10回実施参加者276人 ・県外研修会への職員派遣 ひまわりｾﾐﾅｰでは、年間10回を企画し学習機会の充実に努める。 職員の県外研修派遣を行う。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
		74	人権教育・啓発推進協議会運営事業	人権政策	伯耆町人権教育・啓発推進協議会の運営・活動を支援するとともに、各種事業を開催し、人権教育・啓発の推進を図る。	(1)人権教育・啓発に関する調査研究及び実践 ・各種人権週間広報啓発活動 ・行政職員悉皆研修に代えて、差別対応マニュアルを全職員にﾉｰﾂの掲示板で再度周知徹底した。 ・人権啓発標語の募集及び表彰（応募数828点） (2)研修会及び講演会の開催 ・明るいまちづくり懇談会（参加型学習で、1集落開催）視聴覚教材等による学習を併用した。 ・伯耆町人権ﾌｫｰﾗﾑ2025(参加者173人） (3)資料の刊行及び啓発 ・人権ｶﾚﾝﾀﾞｰの作成・配布（町内全戸・企業） ・伯耆町人権だよりの作成・配布（町内全戸） ・人権ｶﾚﾝﾀﾞｰを事業所部会の企業へ訪問配布 (4)関係機関団体との連携 ・研究校の指定と授業研究会の開催 ・研修会への参加 ・各種団体の活動支援 ・明るいまちづくり懇談会を再開したが、集落の意向も考慮して従前の方法に新たな工夫を加えて、より充実させるよう努める。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
3-(2) 人権尊重のまちづくりの推進（つづき）	① 人権尊重のまちづくりの推進（つづき）	75	文化センター管理運営事業	文化センター	地域社会全体の中で福祉の向上や人権啓発の住民交流となる開かれたｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰとして、生活上の各種相談事業や人権課題解決のための各種事業を総合的に取り組んだ。	・地区学習会（5月～3月、月2回） 小学生（5人） 22回（たくしｸﾗﾌﾞも参加） 延べ238人(うち地区児童81人） 中学生（1人） ・地区学習会だより「ひまわり」を発行し、保護者との連携を図ることができた。 ・相談事業 随時 ・各種教室 4教室毎月1回 おんがく延べ75人 編物延べ53人 料理延べ82人 芸能延べ79人 ・各種講座 年15回 79人参加 ・ﾐﾆﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ事業 ｹﾞｰﾑ、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ、創作活動、会食などを取り入れ、楽しめる憩いの場として定着。地域活動への参加につながっている。延べ11回140人参加 ・百円ランチ 11回 116人参加 ・交流研修事業 町内外からの研修、児童を受け入れて地区の歴史・体験・活動などを伝え、人権意識の高揚や差別解消に努めた。 5団体 117人参加 ・だんだんまつり 2月 368人参加 ・その他児童館事業(毎月第4土曜日「わくわく土曜日」夏休みのお楽しみ)、ｾﾝﾀｰだよりの発行等を実施し、人権教育推進や地域活性化に努めた。 (令和7年度新規事業)令和7年9月より、毎月第2土曜日を「ゆったり土曜日」として児童館を開放している。(ものづくり、ｸｯｷﾝｸﾞ教室など実施） 今後も継続して、地域住民の方と連携し、各種相談事業、社会福祉に関する事業、健康対策に関する事業及び人権に対する理解を深める活動等を行い、地域住民の方の生活の向上を推進する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
		76	男女共同参画推進事業	人権政策	家庭並びに社会生活における活動等への男女共同参画社会の実現に向け、男女共同参画推進計画を基に、各種事業を実施する。	平成28年度から総務課に移管となり、男女共同参画推進計画の策定については、総務課で行っているが、個別の人権課題の一つとして引き続き啓発に取り組む。 今後とも総務課と連携して啓発活動を継続して実施する必要がある。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
		77	町営住宅修繕事業	人権政策	老朽化が進行する町営住宅の修繕を行ない、住環境の充実を図る。	老朽化が進行する町営住宅の修繕を行い、住環境の充実を図った。 平素から,入居者の連絡に速やかに適切に対応するようにしている。 入居者がいない、状況の悪い空き家については、解体撤去の準備をした。実施は令和8年度に2戸１棟を実施予定である。 町営住宅の適切な管理を行うため入居者とのつながりを大切しにして、速やかで適切な修繕や住環境の維持に努める。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）修繕は計画的に速やかに。 （R6）移住者用に新たな事業を検討していただきたい（江府町のような）。
3-(3) 芸術文化の振興と豊かな人間性の創造	① 文化財の保存と活用	78	埋蔵文化財調査事業	生涯学習	開発に伴って事前に試掘調査を行い、埋蔵文化財の有無や性格を確認し、事業者との調整を図る。	令和7年度実施 1箇所（伯耆町久古 豆尾遺跡）20㎡ 開発に伴って事前に試掘調査を行い、埋蔵文化財の有無や性格を確認し、事業者との調整を図る。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
3-(3) 芸術文化の振興と豊かな人間性の創造（つづき）	① 文化財の保存と活用（つづき）	79	文化財保護事業	生涯学習	本町にある指定文化財等の維持管理及を行う。また、出土品の展示や歴史文化に関する講演会等を開催し、郷土の歴史学習の機運を醸成する。	・国指定文化財 1件、県指定文化財 3件、町指定文化財 11件　計15件 　新たに「矢田貝氏庭園」が県指定文化財に指定。 ・指定文化財等の維持(草刈り、除草等)を実施した。 ・矢田貝家古文書を読む会　令和7年6月7日　14名 文化財保護審議会の意見を基に適切に指定文化財等の管理に努める。 郷土の歴史や文化に触れることができるように講演会の開催や情報提供を行う。公民館等で簡易展示を行い、町民が文化財と触れ合う機会を設ける。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）矢田貝邸、とても素晴らしい建物で楽しいイベントも開催している。町民がもっと親しんで利用し、町内外に広まるとよい。
		80	文化財整理・保存施設管理事業	生涯学習	空き施設である旧鬼ﾐｭｰｼﾞｱﾑを文化財整理・保存施設として再整備するとともに、民俗資料及び文化財の常設展示を行い、貴重な資料・文化財を後世に伝える。	過去の発掘調査によって出土した埋蔵文化財や民俗資料が約1,000点ある。文化財整理員を任用し、文化財保護審議会委員等有識者に指導・助言を得て資料整理を進めた。一部整理の出来た資料については、二部公民館で行われた二部たたら祭り（令和8年2月21日、22日）にあわせてたたら関係資料を展示した。 今後は展示場所を確保し、具体的にどのような資料を取扱い、どのような展示内容にするのか検討していく。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
	② 地域芸術文化の振興	81	地区文化祭・まつり開催事業	岸本公民館	公民館を主たる会場として、文化祭・祭を実施し、公民館の同好会、保育園児から高齢者まで地域住民の生涯学習の成果発表の場を提供した。 実施にあたっては、地域住民からなる実行委員会を組織し、企画、準備、運営を行なっている。	令和7年度の岸本公民館きないや祭は、11月15(土)・16日(日)に岸本公民館、岸本小学校体育館を会場として開催した。 ・作品展、行政展など展示関係を岸本公民館で、公民館教室等の発表を岸本小学校体育館で開催することができた。 ・フリーマーケットは会場を変更し、岸本公民館で行った。 ・豚汁の無料提供や青空市、吉長市を行った。 ・土曜日の飲食提供を望む意見に対応するため、土曜日にもキッチンカーを招致した。 ・2日間の来場者数約2,000人 ・飲食の提供は、吉長市・青空市を行う日曜日に集中しており、土曜日の来場者には豚汁の無料提供のみとなっている。土曜日の飲食提供を求める意見があるため、令和7年度は土曜日にもｷｯﾁﾝｶｰを招致した。今後も、両日の飲食提供を行う。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）世代を超えて、住民が集まる仕掛け、呼びかけが必要なのでは？ （R6）大人主体ですすみすぎていて、家族連れは楽しめない。各地区の子どもたちと協力し合って開催できれば盛り上がるのでは？ （R6）公民館を核とした地域みんなでつくる祭になってきている。自分たちの地域を自分たちの手でという意識につながってほしい。
				溝口公民館		・溝口公民館祭 3月21・22日開催 、22日は溝口彼岸の市との共同開催となった。実行委員会を組織し、住民参画による運営に務めた。運営面で、中学生・高校生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの協力があり助かっている。体験ｺｰﾅｰ、作品展示、溝中吹奏楽部演奏、くろぼくｺﾝｻｰﾄ、JA女性会の物販、食育サークル「食楽々」の試食ｺｰﾅｰ、本のﾘｻｲｸﾙ市等を行った。出演ｻｰｸﾙが一丸となって発表へ取り組み、頑張りを多くの方へ賞賛してもらえる場となったことは良かった。中学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ（8人）高校生ボランティア（4人）参加 1日目294人（前年323人）・2日目980人（前年803人）。 ・各種同好会や教室の減少傾向がある中、広く町民から作品を募集することにより、一層町民の公民館まつりという意識化を図り、公民館同好会が中心となり、地域を巻き込んで、自分たちのまつりという機運を高めていく。 ・中学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ高校生ボランティアには自主性を尊重するとともに、負担感とならないよう配慮し、参加した中学生の社会性の意識向上・醸成に繋がるよう努める。・会場設営・撤去に実行委員に声掛けをし、参加していただく。同好会の発表の午前中は人が少なかったので参加の呼びかけを強化する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
3-(3) 芸術文化の振興と豊かな人間性の創造（つづき）	② 地域芸術文化の振興（つづき）		地区文化祭・まつり開催事業（つづき）	二部公民館		・第41回たたらまつりを 2月21日～22日で、実施した。 ・開催にあたっては、地域住民の積極的な参画により、まさに「地域住民手づくり」のまつりにしていきたい。 来館者:465人 ・地域住民が主体となった「二部地区手づくり」のまつりが開催できており、引き続き地域住民主体のまつりを企画運営していく。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
				日光公民館		・第46回日光ふるさとまつりを3月14日、15日に開催した。 ・各種同好会や地区住民等の作品展示・ﾌﾘｰﾏｰｹｯﾄ・農産加工品の物販に加え、日光そば・餅つき・食改の試食ｺｰﾅｰ・体験ｺｰﾅｰ、義方公民館の海産物の即売などを行った。 参加者350名（前年330名） ・実行委員会を組織し住民参画により、地区住民の意見を十分に取り入れた事業内容を検討していく。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
		82	写真美術館管理運営事業	美術館	美術館の運営を通じて、植田正治作品の紹介や地域の写真芸術・文化の振興に寄与する。	・予定どおり年3回の企画展を開催した。地元新聞紙、その他雑誌等掲載し集客を図った。 ・9月21日に秋篠宮内親王佳子殿下が来館され、1時間15分にわたって館内をご視察されるとともに、伯耆町在住の写真部高校生3名と御懇談された。 令和7年9月に開館30周年を迎えたことから、9月13日から12月10日まで記念企画展「夢見るｶﾒﾗ」を実施した。 令和8年6月からの企画展においても、30周年記念最後の記念企画展を実施する予定にしている。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
		83	写真美術館改修事業	美術館	施設の老朽化や損傷等について、更新・改修等を行うことで、展示環境や来館者の利便性・観覧環境の改善を図る。	令和6、7年度は予算計上なし ・映像展示ｼｽﾃﾑが老朽化により不具合が出始めているため、更新を検討する必要がある。 ・蛍光管の製造が廃止になるため、全館LEDにする必要がある。 ・空調設備が設置後15年経過し故障も出始めているため、更新を検討する。			継続	
		84	鬼の館運営事業	生涯学習	本町の文化拠点として、文化に直接触れる機会の提供、各種団体の研修や町内ｻｰｸﾙ等の発表の場として文化団体の支援・利用促進及び施設の維持管理を行う。	適切な維持管理を行い、町内ｻｰｸﾙ等の発表の場を提供した。 利用件数:107件、利用人数:4,135人 男子・女子トイレの手洗い栓について、それぞれ一か所を自動水栓とした。 ・引き続き文化団体や個人の発表の場を提供するとともに、住民が文化に直接触れる機会を提供していく。 ・空調の効率化、ﾄｲﾚ手洗い改修等について、予算の範囲内で可能な対応を検討する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）駐車場が整備され、とても利用しやすくなりました。 空調がホールの後ろ側からだけのため、調整ができないままとなっているのは残念です。トイレの手洗いがかなり老朽化していて、今後の感染対策として自動水栓にしてはどうでしょうか。 （R6）施設の再利用を本気で取り組むべき。

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
3-(3) 芸術文化の振興と豊かな人間性の創造（つづき）	② 地域芸術文化の振興（つづき）	85	地域文化活動の支援	生涯学習	豊かでうるおいのある生活を創造するため、芸術文化の振興・育成を図り、町内芸術文化事業を充実する。	地域文化活動の支援のため、伯耆町文化振興会の支援と、各種文化事業を計画した。 ・文化振興会の支援 詳細はNo.88参照 ・文化講演会 6月14日（土） ・伯耆町美術展 11月8日（土）～10日（月） ・伯耆町民音楽祭 8月31日（日） ・ほうきﾐｭｰｼﾞｯｸﾌｪｽﾄ2025 11月30日（日） ・歴史探訪 6月26日（木）、10月23日（木） ・くろぼくｺﾝｻｰﾄの支援 住民と一体となって、芸術文化の振興を図っていく。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
		86	文化活動団体支援事業	生涯学習	町内の芸術文化活動を行う団体への支援を行ない、文化活動の振興に努める。	・鬼面太鼓振興会・岸本風神太鼓振興会へ補助を行い、後継者育成、演奏技術の向上等活動を支援した。 ・町内文化活動団体の練習会場として、鬼の館を無償で貸し出した。 ・文化の継承のためにも、団体の安定的な運営に向け継続した支援が必要。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
		87	文化振興会補助事業	生涯学習	町内の文化活動の活性化のため、伯耆町文化振興会を支援する。 会員数38人（令和7年3月現在）	○総務部会 ・総会（6月14日、文化講演会後に実施） ・文化講演会（講師 鳥取県立青谷かみじち史跡公園 河合章行氏） ・会報21号発行（全戸配布） ○音楽部会 ・第20回町民音楽祭（14団体参加、来場者207人） ・ほうきﾐｭｰｼﾞｯｸﾌｪｽﾄ2025（3団体参加、来場者100人） ○美術部会 ・第21回美術展（一般展示123点、特別展12点、児童生徒105点展示、来場者760人） ○歴史文化部会 ・歴史探訪（「和鋼博物館ほか」参加者21人、「佐野川用水ほか」参加者20人） ・役員、会員の高齢化が進んでおり、組織のあり方について、会の中で検討し意思統一していく必要がある。R7に会長交代。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）歴史探訪は地域の遺跡等を知るのにいつもワクワク。今後も是非、地域の歴史を掘りさげて郷土歴史を知る機会を望みます。 （R5）地域型部活として、各中学校の部活動の1つとして捉えてはどうだろう。
		88	教育委員会表彰事業 ※芸術文化の部	生涯学習	町民及び出身者でｽﾎﾟｰﾂ・芸術文化において、顕著な活躍をした者を表彰することにより、ｽﾎﾟｰﾂ・芸術文化の振興を図るとともに、被表彰者の今後の励みとなるよう住民に周知する。	令和8年3月25日に表彰式を開催した。 ｽﾎﾟｰﾂ団体には教育長から授与、その他は学校から表彰状及び記念品を配布した。 受賞者: 芸術文化の部 個人57名 団体4 計72名 ｽﾎﾟｰﾂの部 個人42名 団体10 計68名 表彰規定の見直しを行い、令和6年度から適用した。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
3-(3) 芸術文化の振興と豊かな人間性の創造（つづき）	② 地域芸術文化の振興（つづき）	89	写真芸術・文化振興事業	美術館	写真芸術・文化の振興に資することを目的に、ﾌｫﾄｺﾝﾃｽﾄ、ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ、作品説明、ﾌｫﾄｽｸｰﾙを開催する。	・写真美術財団の事業として、ﾌｫﾄｺﾝﾃｽﾄ、ﾌｫﾄｽｸｰﾙ、ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟを実施した。 ・ﾌｫﾄｺﾝﾃｽﾄ 応募点数：一般の部452点（208人） 18歳以下の部：276点（229人） 審査員：織作峰子氏（写真家、大阪芸術大学写真学科学科長）、 平間至（写真家） 入賞・入選作品展示：11月6日（水）～12月9日（月） 表彰式：12月1日（日） ・ﾌｫﾄｽｸｰﾙ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ：作品鑑賞、ﾃﾞｼﾞﾀﾙｶﾒﾗの基礎講座、撮影会、撮影会作品の講評 参加者数：13団体（町内小中学生他） 208人 ・ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ テーマ：写真を使わずに、写真が作れる？ 開催日：8月3日、4日（各日午前午後の2教室） 対 象：小中学生 参加者：41名 ・ﾒｰｶｰ側の経営悪化により、ﾌｫﾄｺﾝﾃｽﾄへ景品供給が減っている。また、ﾌｫﾄｽｸｰﾙ用のｶﾒﾗの貸与も、1社のみとなったため柔軟に対応できにくくなっている。新たな借入先を見つけるか、購入するか等の検討が必要。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
4-(1) 生活の中にスポーツがある暮らしの支援	① 幼児・小中学生のスポーツ活動の推進	90	こども体力・運動能力等向上事業	総合スポーツ公園	幼児を対象として、体力・運動能力向上を目的に町内各保育所へ指導員を派遣し、運動・運動遊び指導を行う。（ｽﾏｲﾘｰｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ委託事業）	町内4保育所で年中年長児を対象に運動教室を年間80回開催した。 運動遊びなどを通じ、子どもの体力・運動機能向上に有効な事業であり、今後も継続実施する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）幼児期の運動遊びが、将来に大きく影響するものと考えます。大切な事業ですので継続・充実を望みます。 （R5）学校の体育だけでは、十分向上しない。社会体育がリードして学校外での体力づくりをしていかないと子どもの体力は低下することを危惧する。

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
4-(1) 生活の中にスポーツがある暮らしの支援（つづき）	① 幼児・小中学生のスポーツ活動の推進（つづき）	91	伯耆町体育団体等補助事業 ・ジュニアクラブ活動支援	総合スポーツ公園	ｽﾏｲﾘｰｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞに所属するｼﾞｭﾆｱｸﾗﾌﾞに対し補助を行い、児童生徒の健全育成、競技力向上、指導者等の育成及び地域ｽﾎﾟｰﾂの振興を図る。	・ｼﾞｭﾆｱを対象にした各種活動を実施し、体力・運動能力・競技力向上や健康増進に寄与した。 ・支援対象ｼﾞｭﾆｱ団体 9種目11団体 ・伯耆町TVや団員募集冊子の配布など、会員増加に取り組むとともに、認知度を向上させるための広報活動を行って行く。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）運動する子供が増えるようなCMを増やしていいと思う。（R6）立地について、冬に活動しにくい。集客しずらい（雪と寒さ）。スマイリーの活動であれば平地（岸体や溝体）での代替活動もOKにしてみては？ 老人向けのレッスンも、通いやすければ活性化するのでは！？
4-(1) 生活の中にスポーツがある暮らしの支援（つづき）	① 幼児・小中学生のスポーツ活動の推進（つづき）	92	スポーツクラブとの連携による健康づくり	総合スポーツ公園	教育委員会が主管する健康づくり事業やｽﾎﾟｰﾂ振興事業を総合型地域ｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ「ﾏｲﾘｰｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ」と連携し実施する。	・町内保育所児童を対象に「子ども体力運動能力向上事業」として体操教室を開催している。【事業番号90に実績を記載】 ・大人を対象としたﾌｨｯﾄﾈｽ教室やｳｫｰｷﾝｸﾞ大会など、子どもを対象とした水泳教室、親子体操教室など、補助事業として教育委員会と総合型地域ｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞが連携し開催している。 健康づくり関連の運動教室をｽﾏｲﾘｰｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞと共催する形で実施していく【事業番号95に実績を記載】	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
	②ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	93	スポーツ推進審議会事業	総合スポーツ公園	教育委員会のｽﾎﾟｰﾂに関する諮問及び町のｽﾎﾟｰﾂ推進に関する事項について研究協議を行う。	下記の項目を主な議題として審議会を1回開催した。 ・ｽﾎﾟｰﾂ推進計画（第3次）の進捗状況とまとめ ・中学校運動部の地域移行について ・令和6年度からの伯耆町ｽﾎﾟｰﾂ推進計画（第3次計画）を策定した。計画に沿ってｽﾎﾟｰﾂ振興に取り組む。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）年1回の審議会にスポーツ振興が推進されるのか、それはどのように公表され、周知されるのか。
		94	スポーツ推進委員事業	総合スポーツ公園	委員を委嘱し、町内のｽﾎﾟｰﾂ振興・普及を図る ・町内体育行事の運営協力 ・生涯ｽﾎﾟｰﾂの指導、普及啓発 ・総合型地域ｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞの運営	・各種研修会やｽﾎﾟｰﾂ大会運営補助などの活動に取り組んでいる。 ・部活動地域移行協議会、ｽﾎﾟｰﾂ推進審議会、町民運動会実行委員会、ｽﾏｲﾘｰｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ理事・監事など、各種委員に就任している。 ・ｽﾎﾟ少指導員、部活動指導員、ｱｽﾘｰﾄｸﾗﾌﾞ代表など、町ｽﾎﾟｰﾂ団体の運営に寄与している。 ・委員の定員は8名で任期は2年間（任期:令和7年3月31日～令和9年3月31日） ・ｽﾎﾟｰﾂ推進員の活動について、広報誌等での周知を検討する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）活動に目立った様子が見られません。本来日本スポーツ協会が定めるには、市町民の健康増進・生涯スポーツの計画・立案とありますが・・・。まず、町民の皆さんが「誰が」スポーツ推進委員かご存じないのでは？
		95	スマイリースポーツクラブ支援 （スマイリー独自活動支援関係）	総合スポーツ公園	ｽﾎﾟｰﾂを通じて地域住民の健康増進や体力向上を目的に活動する総合型地域ｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ、「ほうきｽﾏｲﾘｰｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ」が主催するｽﾎﾟｰﾂ活動に係る経費の一部について補助金を交付し支援する。	健康づくり等を目的とした教室・大会を開催し町民の健康増進に寄与した。 ・ｽﾏｲﾙﾌｨｯﾄﾈｽ教室 15回 延べ240人 ・ほうきｷｯｽﾞｱｽﾚ 15回延べ225人 ・ｽﾏｲﾘｰｳｫｰｷﾝｸﾞ 13人 ・ｷｯｽﾞｸﾛｽｶﾝﾄﾘｰ大会 42人 ・親子体操教室 3回延べ105人 ・体力ﾃｽﾄ判定会 14人 ・親子で谷川探検46人 ・親子プール運動あそび教室24人 ・夏休み水泳教室 5日間延べ235名 ・夏休み幼児泳教室 5日間延べ145名 ・ｽﾏｲﾘｰｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞはｽﾎﾟｰﾂ庁・日本ｽﾎﾟｰﾂ協会が市町村に設置を推奨する「総合型地域ｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ」であり、行政主導ではなくｸﾗﾌﾞ員や地域住民の意見を取り入れたｽﾎﾟｰﾂ活動を今後も実施していく方針。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
4-(2) いつでも気軽にスポーツができる環境の整備	① いつでも気軽にスポーツができる環境の整備	96	町内体育施設管理運営事業	総合スポーツ公園	町内の社会体育施設である体育館・武道館・町民ｸﾞﾗﾝﾄﾞ・総合ｽﾎﾟｰﾂ公園等の管理運営を行う。	各施設利用者数(前年比較) ※中学校部活利用は除く ・社会体育施設（町民体育館ほか） 44,038（43,695）人 ・総合スポーツ公園 35,797（32,078）人 【主な施設・備品修繕等】 ・溝口体育館低圧受電化改修工事 ・岸本武道館入口ﾄﾞｱ修繕工事 ・総合ｽﾎﾟｰﾂ公園水路清掃業務 ・公用車購入業務 【主な施設管理委託業務等】 ・総合ｽﾎﾟｰﾂ公園芝生更新業務 ・総合ｽﾎﾟｰﾂ公園及び溝口体育館植栽剪定業務 ・各施設消防用設備点検業務 ・伯耆町特定建築物（社会体育施設）定期調査委託業務 ・岸本B＆G海洋ｾﾝﾀｰ機械設備保守点検業務 ・今後も安全で快適なｽﾎﾟｰﾂ環境を提供できるように施設の管理運営を行う。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）公共施設、特に運動施設は、安全で衛生的に管理されなければならない。草だらけ、樹木だらけではあぶない。計画的に。 （R6）利用許可申請のシステムをオンラインでできるようにしてほしいです。南部町や江府町もそうなっているところが多い。せめて空き状況だけでもわかるように。 （R6）生徒数も減ってきておりますが、社会体育館の日中の使用は、中学生の授業優先の慣例が何十年と続いております。学校には本来体育の授業の体育館があり、社会体育館は日中でも町民に開放されるべき施設だと思います。それがすなわち、町民自らが健康増進を考え進んでスポーツに親しむ姿勢を育てると思います。町民が直接言える場がないとおもいますが・・・ （R6）たくさんの団体が岸小の施設を利用しておられる。それに伴い修繕等の費用は、かなり教育委員会に助けていただいている場合もあり、学校でない方がありがたい。
		97	体育施設改修事業	総合スポーツ公園	体育施設を快適な環境で利用できるよう施設改修等を行う。	・総合ｽﾎﾟｰﾂ公園遊具設置工事 ・照明のLED化を含め、計画的に施設の改修等を行う。 （R8年度に岸本B&G海洋ｾﾝﾀｰ照明LED化改修工事予定）	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R5）夏に体育館使用を社会体育でフル稼働している場所もある。WBGT（暑さ指数）が危険な状況でも使用されている場合がある。快適な使用環境を考えた場合、室内の温度を遮熱する工事が必要ではないだろうか。 （R6）暖房の充実を！ （R6）夏に体育館使用を社会体育でフル稼働している場所もある。WBGTが危険な状況でも使用されている場合がある。快適な使用環境を考えた場合、室内の温度を遮熱する工事が必要ではないだろうか。 （R6）スポットクーラーの設置ありがとうございます。ダクトの修理が発生した場合の修理費の予算化についてご検討ください。
		98	伯耆町体育団体等支援事業 ・一般ｽﾎﾟｰﾂ団体等支援	総合スポーツ公園	ｽﾏｲﾘｰｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ（ｱｽﾘｰﾄｸﾗﾌﾞ）に対し補助を行い、競技力向上、指導者等の育成及び地域ｽﾎﾟｰﾂの振興を図る。	ｽﾏｲﾘｰｱｽﾘｰﾄｸﾗﾌﾞの活動を支援し、競技力の向上、競技普及及び各種競技大会へ参加を支援した。 ・支援対象ｱｽﾘｰﾄｸﾗﾌﾞ団体 6種目6団体 ・会員増加に向けての企画立案。 ・町民への認知度を向上させるための広報活動を実施する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）アスリートクラブ団体とその他の任意団体との違いを保護者が認識していない。教委からも支援があることを周知し、指導者の指導力向上にも力を入れていることを周知していただきたい。

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
4-(2) いつでも気軽にスポーツができる環境の整備（つづき）	① いつでも気軽にスポーツができる環境の整備（つづき）	99	各種スポーツ団体補助事業	総合スポーツ公園	伯耆町ｹﾞｰﾄﾎﾞｰﾙ協会並びに伯耆町ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞｺﾞﾙﾌ協会活動経費の一部を補助する。	・生涯ｽﾎﾟｰﾂの普及振興や高齢者の生きがいの場を提供に寄与した。 ※町大会運営や郡、県大会等さまざまな大会に参加されている。 ・今後も生涯ｽﾎﾟｰﾂの普及振興や高齢者の生きがいの場を提供できるよう、継続的ｻﾎﾟｰﾄを行う。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
		100	教育委員会表彰事業 ※スポーツの部（No88事業の再掲）	生涯学習	町民及び出身者でｽﾎﾟｰﾂ・芸術文化において、顕著な活躍をした者を表彰することにより、ｽﾎﾟｰﾂ・芸術文化の振興を図るとともに、被表彰者の今後の励みとなるよう住民に周知する。	令和8年3月25日に表彰式を開催した。 ｽﾎﾟｰﾂ団体には教育長から授与、その他は学校から表彰状及び記念品を配布した。 受賞者: 芸術文化の部 個人57名 団体4 計72名 ｽﾎﾟｰﾂの部 個人42名 団体10 計68名 表彰規定の見直しを行い、令和6年度から適用した。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
4-(3) スポーツでつながり広がる交流・連携の推進	① スポーツ交流の充実・支援	101	地区運動会・その他イベント開催事業	岸本公民館		・令和6年度は町民運動会岸本地区大会を10月6日に開催した。36集落のうち、13集落の参加。（令和元年度24集落の参加に対し11集落の減） ・令和7年度は雨天中止 ・ｱﾝｹｰﾄ結果から、集落内の少子・高齢化等により参加しにくい傾向にある。（選手集め等、役員の負担感が大きい） ・午前中で終了するﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ、種目の年齢制限緩和など参加しやすい工夫を行っているが、更なる検討を行う。	●	未実施事業20%以下,″	継続	（R5）集落や地域で交流する機会が減少する中、運動、スポーツを通した交流は貴重な機会です。お祭り気分で集える機会になればと思います。世話役は大変ですが、継続することが大切です。 （R5）地区運動会が色々な意味で開催できにくくなっている。区長が意見を出すような従来の進め方はやめ、若い世代に検討させてみるべきではなかろうか。 （R5）運動会でなくても地域の人が集う場を設定していくことが重要だと思う。 （R5）他の市町では、中学生の参画を促し、運動会の実行委員であるとか、企画を採用するなど、地域と生徒との結びつきを強める仕掛けを実施するところもある。 （R5）地域の現状に合わせて、何か地域住民が顔を合わせて世代を超えた交流ができるとよい。 （R5）難しいと思うが運動会に出席が増えたら子供が楽しい、来やすくなる。 （R6）小学校の運動会で50m走（徒競走）をやらないのであれば、町のイベントでやってみては？順位付けも時には必要！ （R6）従来の内容にこだわらない形で、町民が楽しめるものを考えていく。企画段階から、人がいないので不参加では、体力づくりも、人の交流もできない。 （R6）溝口地区の運動会。どうなるのかなと思います。 （R6）中学生の参加要請を検討されるイベントについては学校行事を念頭において協議いただくか、学校との連絡・調整を図っていただきたい。 （R6）事業の形を地域の実情にあわせて変えていき、スポーツを通じて住民が交流できる機会を継続して持ってほしい。

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
4-(3) スポーツでつながり広がる交流・連携の推進（つづき）	① スポーツ交流の充実・支援（つづき）		地区運動会・その他イベント開催事業	溝口公民館	町民総ｽﾎﾟｰﾂの中心的な事業として運動会を開催し、子どもから高齢者までの参加により地域の連帯感、親睦を深めた。 実施にあたっては、地域住民からなる実行委員会を組織し、企画、準備、運営を行っている。	実行委員を公募し会を重ね、8年ぶりに開催した。小中学生有志も参画し運営に携わる等、「超民運動会」と銘打ち、年齢性別地区を超えた形になりつつある。天候に左右されぬよう会場は町民溝口体育館で午前の半日開催。5競技で競技者はのべ約240人、当日の実行委員・役員は31人、中学生ボランティアは6名であった。 今後も公募の実行委員会を立ち上げ企画運営し、参加者は日光・二部にも呼びかけを広げ、溝口地域の運動会として行う。	◎	新規事業目標達成90%以上	継続発展	
				二部公民館		・町民運動会二部地区大会 令和5年6月26日二部公民館で区長により協議をした結果、少子高齢化による人口減少により運動会の開催は困難と判断した。 また、運動会に代わる高齢者から子どもまで集える催しとして、二部地区活性化推進機構主催のeｽﾎﾟｰﾂ体験交流会を1月24日(土)に開催した。 高齢者から子供まで集える催しを、二部地区活性化推進機構主催で開催する。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
			地区運動会・その他イベント開催事業（つづき）	日光公民館		・町民運動会日光地区大会については、年齢制限の撤廃や男女別の緩和など参加しやすいよう工夫をしていたが、選手集めが大変、若い者の参加が少ない、2~3種目に重複して参加しているなどの課題があった。 そのため、令和5年度に区長等で協議し、運動会を続けることができないとの結論となり廃止とした。 ・伯耆町駅伝大会についても公道での危険性や日光女性会の解散、農村広場の管理などの課題があり廃止とした。 運動会の代替事業として、健康と食のまつりを11月24日(日)に開催した。 内容は、eｽﾎﾟｰﾂ・健康ﾁｪｯｸ・減塩ｽｰﾌﾟの提供とし、外部団体の協力を得て実施した。 また、駅伝大会に代わる催しとして、総合ｽﾎﾟｰﾂ公園でﾘﾚｰﾏﾗｿﾝ大会を開催した。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	
		102	生涯スポーツ振興事業	総合スポーツ公園	一般町民を対象としたｽﾎﾟｰﾂ大会を町内ｽﾎﾟｰﾂ団体等と連携し開催することで、各種ｽﾎﾟｰﾂの振興、町民の健康づくり及び町民の交流・親睦に寄与する。 運営は、ｽﾏｲﾘｰｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞに委託。	一般町民を対象とした町主催ｽﾎﾟｰﾂ大会を7事業計画した。全大会予定通り開催した。 ・4月 ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ大会 ・5月 ｿﾌﾄﾃﾆｽ大会 ・9月 野球大会 ・10月 ﾘﾚｰﾏﾗｿﾝ大会 ・11月 ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ大会 ・1月 ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ選手権大会 ・3月 卓球大会 ・ﾘﾚｰﾏﾗｿﾝ大会は町制20周年記年大会として開催した。 今後も町民の交流、親睦に寄与する大会を開催していく。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	

計画分類		主な事務事業				これまでの成果と今後の展開	評価		今後の方針	（参考）第三者意見
施策	取組方針	番号	事業名	担当	事業概要	上段：主な成果等（数値等はR7年度実績） 下段：今後の展開・改善方針等				
4-(3) スポーツでつながり広がる交流・連携の推進（つづき）	③ 競技スポーツの支援（つづき）	103	生涯スポーツ振興事業（ジュニアスポーツ大会関係）	総合スポーツ公園	町内小学生を対象にしたｽﾎﾟｰﾂ等のｲﾍﾞﾝﾄを開催し、ｽﾎﾟｰﾂに親しむ基盤づくり、体力・運動能力の向上及び小学生同士の親睦・交流を図る。	小学生を対象とした町主催事業(B&G財団関連事業)を実施した。 ・5月 海ごみ0ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ(ｺﾞﾐ拾いﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動)45名 ・7月 B&G水辺の安全教室　8名 ・2月 B&G会長賞ｼﾞｭﾆｱﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ大会 24名 ・ｽﾏｲﾘｰが主催する小学生対象事業とともに、今後も連携して実施していく。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	（R6）子どもを対象にした活動が増えることが望ましい。企画する側（大人）に元気がないように思う。
		104	スポーツ優秀選手支援事業	総合スポーツ公園	町内の特にﾚﾍﾞﾙの高いｽﾎﾟｰﾂ優秀選手に対する支援や顕彰を行うことで、意欲向上等による一層の活躍とｽﾎﾟｰﾂに対する町民の関心を高める。	・全国大会等に出場する団体、個人に対し経費の一部を補助 20(16)件 ・全国大会に出場する団体、個人の看板を作成し、役場前に掲示 48(41)件 ・今後も町内の公共的ｽﾎﾟｰﾂ団体及びｽﾎﾟｰﾂ優秀選手に対し、活動支援補助を行う。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上	継続	

報告書個別事業に対する有識者の意見等

◆教育行政全般についてのご意見・ご感想等

教育行政全般に関するご意見・ご感想	小学校区毎の家庭数、保・小・中の児童生徒数について、現状値と5年後・10年後の推定値を公開してほしい。学運協やPTAの事業内容を長期的に考えるために必要な数字であるためです。
	学運協の運営委員から次のような意見が出ました。町民、保護者に「コミュニティ・スクール」「学校運営協議会」の言葉が定着するよう、教育委員会が意図的・計画的に発信していく役割があるのではないか。
	第三者意見を示されており良いと思います。それを参考に事業改善に取り組んでください。
	例えば、きないや祭、町民音楽祭など町内のイベント開催に、中学生ら若い人を含めた実行委員会を立ち上げてほしい。また、当日のスタッフも中学生、高校生らのボランティアを募り、動いてもらえるようになればと思う。
	「教員不足」「家庭教育との連携」「AI活用」「DX」「不登校」「様々な発達障がい」「環境問題」「人口減少」そして「学力向上」など、色んなことに配慮するのが教育行政ではありますが、どこに焦点を合わせ、力を入れて取り組むべきこと、残念だけど抜かねばならないところを見極めていただきたいものです。

◆自己点検・評価シートの事業や評価に関するご意見・ご感想等

NO	項目	意見
1	学力向上推進計画策定と進捗管理	県の学力調査でなく、今後も年2回の標準学力調査の実施と分析結果の対策としての人的配置の支援をお願いします。
2	標準学力調査及び分析の実施	CBT化により、検査から結果までの時間は短縮されたが、紙ベースでの配布がないために、分析後につまづきが多かった問題等の補充学習が難しい。
		CBTによる結果即時確認で指導の工夫改善につながっている

2	標準学力調査及び分析の実施	現在「SP表」はないのではないか。
3	小中一貫学力・人間力定着促進事業・学力補充関係事業	英検受験者数の情報を共有し、今後どうしていくのか検討が必要ではないか。
		今後、4thステージにおいて学校と地域をあげて学力向上へ歩んでいく際に、この事業の拡充は方向性にふさわしいと感る。
		伯耆未来塾の周知について、年度当初の募集だけでなく長期休み前にもあると、必要な生徒に支援が届きやすいのでは。
		未来塾の利用状況が分かると良い
		生徒の人間力の向上につながる学びを充実させるため、生徒を対象とした講師招聘に係る費用についても予算化していただきたい。現行の1校10万円では招聘できる講師が限られるため、必要に応じて柔軟に対応できる予算の確保をお願いしたい。
4	体力向上計画策定と進捗管理	計画を立てていても、温暖化の影響で活動自体が制限されることがあった。 指導者側の指導力・工夫改善力の向上を支える取組について考える時期ではないかと感じている。
		小体連関係の陸上、水泳大会がなくなり、小学校では放課後練習、夏季休業中の練習がなくなった。昨今の夏の状況と合わせコロナ禍以前の状況に戻すことは難しい。町内にはB＆Gのプールがあるのだから子ども達が体を動かす機会を作れないか。
		小体連の解散等もあり、体育科の指導力向上が必要。
		プールの築年数の長い学校もあり維持管理が大変だと考える。今後水泳指導を含め、プールの維持管理を含めて検討が必要ではないか。
		児童生徒の体力向上は、学校教育（体育や部活・大会等の実施）が非常に難しいので、家庭や地域が安心して体力向上する為の活動を何かのかたちで援助できないでしょうか。例えば、自然に親しむことを含め、救命胴衣の貸し出しや山案内人の派遣など。
		朝、業間など子どもたちが主体的に運動する機会の拡充を工夫して欲しい。
5	小学校外国語教育推進事業	ALTとの学習の機会が少なかった。

5	小学校外国語教育推進事業	町内に専科とALTの先生が配置されているのはありがたい。子ども達がどれほどの力をつけているかを測る機会があれば中学校での教育にもつなげることができるのではないか。
		中学校の英語教諭・ALT、小学校の専科・ALT・外国語担当教員で年度当初、夏休み等で指導と評価について話す場がいるのではないか。
6	外国青年招致事業	現在、公民館教室の英会話教室では、月に2回岸本のALTが溝口に来て2人でクラスを指導しています。学校についても同様にALTがお互いの授業を見る機会があってもよいかもしれません。
7	栄養教諭による食指導	各学校をこまめに回っていただきありがたい。
		各校にまんべんなく訪問指導してくださり感謝している。 給食試食会での保護者への啓発や座談会が有効である。
		食に関する意識向上と、町内の豊富な食材に感謝する心を育てるためにも継続していただきたい。
		栄養教諭による給食指導、授業参画ありがたいです。
8	伯耆町教育振興会事業・学校保健	R7年度で全保育所・小中学校での朝食調べは終了。新たな健康課題把握のためのアンケートを実施(H8)、今後の展開の変更を。
9	運動部活動推進事業	地域展開に向け、1競技ずつ着実に関係者で協議し、進めていくことが必要
		部活動指導員を確保していただき、大変ありがたく感じている。
10	特別非常勤講師配置事業	様々な立場の方に非常勤講師としてお世話になっており、魅力ある学校づくりにつながっている。
		町内4小学校のうち、溝口小だけ配置がない理由を知りたい
11	伯耆町教育振興会事業 ・人権教育	引き続き、人権主任を中心とした町内各学校の実践共有は必要。
		部会を充実させ、各校で主任が他の先生方に広げていくことが大切になってくる。

12	小中一貫学力・人間力定着促進事業 ・各校研修会	中学校区で同じ方針(スクラム教育、OKJ)で研究をしているのは大きな強み。研究のまとめも同時に出来上がる。ただ、招聘される先生が今後どう継続していくのかが課題。
		今後若い先生が増え、ミドルリーダーが更に若年化していくと考えられる。校内、町、県で具体的な養成をしていく必要があると思う。
13	小中一貫学力・人間力定着促進事業 ・教委研修会	HK30プランの4thステージの「学力」の定義を、学校だけでなく共通理解して臨む体制を作ることが必要だと感じる。
		OKセミナーであったが、午後の三面騒議法による研修会に、溝口中校区の先生方も数名参加されたのは、中校区を隔てた指導法の交流という意味でよかったと感じる。
		小中一貫カリキュラムについては事業概要にないがもう終了ということでしょうか。
		町教振の研修において、非認知能力の研究で知られる中山芳一先生を招聘し、町内の教職員が非認知能力について理解を深める機会を持てたことは、大変有意義であった。今後も、継続的に関わっていただけるような取組をお願いしたい。
15	伯耆町教育振興会事業・授業研究会	(R6)の第三者意見にもありましたが、今の児童生徒数や教員の数の少なさからみて、これまで通りのやり方で進めるのは、必要性と可能性からも難しいと思います。大変ではありますが、ここの改革をすることが、今後伯耆町で働く教員の為であり、学ぶ児童生徒の為にもなると思います。
		他の先生の授業を観ることは大変有効だが、人員不足の中、授業研究会に参加させることが難しい。
18	学校計画訪問、行事訪問、講師訪問、本務者訪問	(R5)第三者意見にありました。教育委員は学校の何を見ればよいのでしょうか。何を見てほしいのでしょうか。
		教職員と教育委員が顔を合わせ話ができる唯一のチャンスである。計画訪問の内容も検討すべき時期だと思う。
19	伯耆町教育振興会事業・保小中一貫教育	保小中一貫カリキュラムを新しく来られた先生方は知っているのか。
20	小中一貫学力・人間力定着促進事業・小中一貫関係事業	教務主任、研究主任が集まる会で保小中一貫カリキュラムの活用について毎年確認しないと人が替わると目的が忘れられていく。
22	中学校教員の小学校への乗入授業	6年生にとっては中学の先生に授業をしていただくことは、中学での学習をイメージでき、入学時には、面識のある先生がいることで、安心して中学に通うことができる。

22	中学校教員の小学校への乗入授業	していない学校があるのは人材の問題？
		令和8年度岸本中学校からの乗り入れ授業はなし。難しいのでは。児童の実態(6年)を入学前に知っておくには良いと思うのだが。
23	就学支援検討会	支援の必要な児童の情報交換を早めにすることで、保小中の支援の連携を図ることができた。
		適切に対応いただいていると感じていますので、今後とも継続をお願いします。
24	伯耆町教育振興会事業・就学支援	教職員への研修は必要と考えている。
25	中学校区の児童生徒を語る会	話し合われた内容(問題点や良し悪しの情報)を教育委員にも共有して下さい。
26	少人数学級実施事業	学校のあり方検討が今後活発になっていくと思われるが、町民全員のベクトルが一方向になるのは皆無。未来の伯耆町がどうあるべきか、教育行政がどう導いていくかが大切だと思う。少人数学級の良さは実証済みだが、過小規模校を維持するには限界があると思う。より踏み込んだ議論が必要と思われる。
27	スクールソーシャルワーカー活用事業	関係機関との連携によって学校だけではない情報収集、対応がとれて助かっている。しかしそのための会が多く教職員に負担が増している。悩ましいところ。
		福祉機関との連携を取り持っていただくなど、学校だけでは対応が難しい部分を支援していただいており、大変助かっている。
29	特別支援教育支援員配置事業 ・早期支援コーディネーター	新入学児の情報交換会では、支援の必要な子どもの具体的な様子を共有することができた。
		入学前の児の様子がわかることはありがたい。
30	特別支援教育支援員配置事業 ・学習支援員等	指導に配慮を要する児童が多い中、学習支援員の方に入ってもらえるのは助かる。
		多様な子どもへの対応に必要不可欠な人材・事業なので、配置の縮小がないようお願いしたい。

30	特別支援教育支援員配置事業 ・学習支援員等	大変ありがたい措置だと感じますので、今後も継続してください。
		配慮が必要な児童の増加、若手教員の増加という実情の中、学習支援員の必要性が向上している。継続をお願いする。
31	学校図書整備及び図書館司書配置	システム導入のありがたさを実感している。学校司書の研修会も充実しており、横の連携もできてありがたい。
		学校司書のスキルアップのための研修は大切である。多くの研修案内をいただき感謝します。
		学校図書システムの導入効果を検証しながら、司書の充実と合わせて読書活動の充実を図っていただきたい。
32	校務支援システムの活用	システムの活用研修を年1回お願いします。
		伯耆町は児童情報、文書連絡受診回答系統がきちんとしていて安心である。締め切りと予定が連携できれば業務がさらに軽減できるのだが。
		県立学校ともこのシステムでつながることができれば、進路に関する情報共有や連絡が円滑になり、進路業務の効率化につながると考える。
33	教育支援センター運営事業	えがお以外のフリースクールを選択した場合、町から補助金の支援があるとよい。
34	就学援助事業 ・要保護、準要保護	入学前支給制度は大変助かっていると感じる。
36	学校施設整備事業	温暖化に伴う児童の活動場所の制限が多く、体育館のエアコン整備は必須ではないか？
		トイレをキレイにしてあげて下さい。学校でトイレに行かない児童生徒もいます。
		避難所機能の向上と児童の熱中症防止の観点から体育館のエアコン設置が必要なのではないか。
		計画的な修繕で3年程度の計画を示してほしい。

36	学校施設整備事業	施設整備に関する予算を拡大し、執行残の金額を大きくすることで、細かな物品を前倒しで導入できるようにしてはどうか。小学校でも数万円のものが壊れていることがあるので早めに対応できるよう工夫をお願いしたい。
37	小学校施設修繕事業	教育環境の在り方検討との関係もあるだろうが、同じ町内の子どもがおかれている環境差が大きい。施設老朽化への対応はお願いしたい。
		各種床面の汚れ、ドアの開閉不具合など職員作業では手が回らない整備、修繕が多くなってきた。また、夏の職員作業は昨今の気温上昇により難しくなってきた。
38	中学校施設修繕事業	岸本中学校のスイング式のトイレ扉は、老朽化により故障しやすく、修繕費も高額となっており、プライベートの観点からも通常の扉への変更をお願いしたい。
40	学校安全体制推進事業	スクールガードリーダーの方の紹介、インタビューを、学校だよりで保護者紹介してほしい。よく見る人だがどういう人なのか分からない、という声が多い。
41	バス事業担当課との連携	いつもありがとうございます。
		お世話になっている。バス利用が難しくなり、複数の校外学習を1回にして対応している。そのぶん、各見学場所での滞在時間の削減、学習内容の縮小が発生している。
		普段から学校行事等で柔軟に対応していただきありがたく思っている。近年伯耆町内での校区外への入学数が増加しており、それに対応したバスの運行を調整していただきたい。
		様々な課題がある様ですが、具体的にどんな事があるのか教えて下さい。
42	ICT環境の整備	「ICT」の名称を、基本計画見直しと合わせて「DX」とした方が整合性がとれると感じる。
		ICTの活用により、子どもたちの学びに広がりができている一方、AIの利用など効果と課題の見極めがさらに重要になると思います。
		ICT教育のデメリットを収集し、環境整備の参考にする。
		前回の導入ではコロナ禍の中での初導入であったが今回は2回目。児童の端末更新を機に充電器と本体、管理ルールの見直しなどをしていきたい。町内で統一して管理できないか。
43	防災教育・避難訓練・防災関係計画の充実	いつどんな自然災害が起きてもおかしくない。学校だけの避難訓練で終わらず行政と地域で避難訓練や避難所の体験運営をやってみる必要性があると思う。

43	防災教育・避難訓練・防災関係計画の充実	社会教育との兼ね合いもあるだろうが、学校施設にどこからでも入れる構造は防犯上の対策が必要では？ 中学校区での避難訓練は今後検討
		溝口中校区の合同引き渡し訓練を今後も継続していきたい。
		夏の気温上昇など、今までにない危機管理が必要。
45	学校給食費補助事業	物価高騰の中、無償化実施で財政も大変だと思うが、給食の質の低下につながらないようお願いしたい。
		今後の物価高騰を見据えて、少し多めの額で予算を組んでほしい。
46	食材供給連絡協議会との連携	産業課と連携し、若手農家への加入促進を行ってほしい。特に白ネギ農家が多いので、白ネギも町産にできると考えられる。
48	家庭教育支援事業	子ども達がマナー、自立心等を身に付け、町内で当たり前となるような家庭の教育力向上を願う。
		各保育所、小中学校、支援センターで保護者対象の講演会実施。状況70%を越えているのか。
		川柳について、本名で堂々と顔を出されてももちろん良いことだが、ペンネーム、顔出し拒否もありにしたらどうか。
49	家庭教育ハンドブック配布及び活用事業	PTAの組織、あり方が見直されてきている。これまで以上に学校運営に協力していただけるような連携と情報共有が必要。
		冊子がリニューアルされ、保護者への統一した意識づけが出来たことに感謝したい。
		学校からアナウンスして配布したが、町として繰り返し啓発していく必要もあると思う（学校もやるが、町としてもやることで効果があがる）
50	PTA協議会補助金	PTA協議会は、町への要望をとりまとめることで精一杯なので、補助金の必要性は薄い。
		町PTA協議会をグリップするのはどこなのか。PTAだけに任せているとPTAの目的より負担感という言葉で衰退していく。

52	地域学校協働本部事業	ゆめネットの活動から更に高校生サークルへつながる仕組を作ることで、地域で活躍する若者が育っていくと思う。
53	伯耆町教育ネットワーク会議事業	青少年育成会議と統合し、負担軽減できないか。
54	子供の体験活動事業	ボランティアでは成り立たなくなるので、少しでも報償費を予算化してほしい。
55	放課後子供教室	子ども達に満足度調査を実施してほしい。学年が上がるにつれ、参加をいやがる計画が見られる。
56	伯耆町教育振興会事業・地域教育	アクションフォーラムでの発表が学校のみになっている。保護者・地域もアクションプランの役割を意識するために実践発表の時期だと思う。
		令和8年度、町内の観光地を巡る内容は参加者にも好評であった。ただ、どうしても開催が夏になるので暑さ対策が大変である。
57	青少年育成伯耆町民会議運営支援	ネットワーク会議と一本化し、参集者の負担を減らしてほしい。
58	高校生サークル((旧)高校生ユースセミナー)	「ゆめネット」の活動経験者をユースセミナーにつなげるしかけを教育委員会がする必要がある。地域で活躍する若者を本当に育てたいかという教育委員会の熱がないと高校生も集まらないと思う。
		イベントへの出店等にとどまらず企画運営への関わり、さらに欲を言うと地域の抱える課題に取組んでいくようなサークルに成長できれば、将来につながるのでは。そのためには高校生に限ぎるとやりにくいかもしれません。
		メンバーやお世話して下さっている方を町報紙やCATVで紹介して身近に感じてもらう、知ってもらう。
59	子供の体験活動事業	参加者の移動手段について一考あるとより充実するのではないかと感じる。
		とても良い体験をさせてもらいました。今後も継続をお願いしたいです。
60	二十歳を祝う会((旧)成人式)	そろそろ実行委員会方式にしていってはどうでしょう。
		正月開催にした方が良いと感じる。

61	通学合宿事業	協力者の確保に苦慮されていると聞く。一方で、希望した児童はやはり全員参加できる環境が整うと良い。（矛盾していることを承知で）
		スタッフの確保が課題とずっと継続しているが、社会教育の弱さだと思う。「我が町の子は我が町で育てる」という機運が育っていない結果だと考えないといけない。社会教育事業の充実を期待する。
		無理に行わなくても良いと思う。
63	公民館改修又は空公共施設の有効活用	PTA、スポ少での活用にどのようなものがあるか情報提供をしてほしい。
		放課後や休みの日に住民が集える“たまり場”として活用できる様な場を検討して下さい。子育て世代の声も聞くので、どのような形式が現実的か検討会を設けてみては？
64	生涯学習支援事業（各種教室・講座の開催）	社会教育の要の公民館が土日に休館はいかがなものだろうか。20代～60代が土日に集まる公民館になってほしい。そうしないといずれ高齢者教室にも集まらなくなると思う。
		特に溝口地域は人口減少が厳しいですが、出会い、仲間づくりの場、生涯学びつづける場としての公民館教室は今後更に重要と思います。
66	社会教育委員	「七夕学校」など研修会や委員会で学んだこと、話し合われていることを知る機会を設けてください。それらをいかにして町づくりに落とし込んでいくか。
		社会教育委員の活躍する場と町民への周知が必要と思う。20歳を祝う会でのあいさつ等、社会教育事業で活躍してほしい。
67	生涯学習まちづくり推進事業	CATVの町内世帯の加入率がとれだけで、広報の手段を検討してほしい。若い世帯はCATV加入している人が少ないイメージがある。
		土日に開館する公民館事業を展開してほしい。
68	社会教育主事等の育成	伯耆町社会教育計画を作成する必要がある。そのためにも社会教育主事が複数人いてもよいと思う。
70	図書館管理事業	岸本地区の図書館が人口に対して手狭に感じる。今のままでは、図書館の利活用に歯止めがかかってしまう。
		町内に同じ機能を持つ2つの図書館があるが、1つは子供図書館にするなど特色を持たせた運用をしてはどうか。

71	図書館振興事業	SNSを活用した発信があるか教えてほしい。なければ地域おこし協力隊とコラボした発信をする等工夫してはどうでしょう。
		以前の図書館とは格段に親しみやすい場所になっていて利用しやすい。一方で、これ程スマホの普及した時代にどうやって今以上の利活用者を増やせるのか。「暮らしに役立つ」と思ってもらえるのか。知見を授からなくてはいけない。
		現在行なっている事業を継続しながら更に充実を図ってください。
72	図書館協議会委員	「どんな図書館にしていきたいか」図書館サイドの思いも共有するのが必要。
73	人権教育推進事業	以前は「ひまわりセミナー」に教職員を参加させていたが、なかなか難しくなった。
75	文化センター管理運営事業	3町交流会は必要か、そろそろ見直す時期だと思う。
76	男女共同参画推進事業	人権政策室での具体を「成果と展望」の欄に書かれないと、何をしておられるのかわからない。
78	埋蔵文化財調査事業	調査事業時の写真等展示を望む。過去の分もあればなお良い。小生の認識不足かも知れませんがパネル展など活動状況を見たいと思います。貴重な資料、文化財を見る機会を増やしてもらい、その展示会などのPRを多めにやってもらえれば幸いです。（見当違いかも知れませんが）
81	地区文化祭・まつり開催事業	「ゆめネット」「高校生サークル」を実行委員に入れて、若者視点で企画をさせてはどうでしょう。
		4公民館を各年で持ち回り開催にし、ヒトもカネも集約してはどうですか。町全体でアピールして、様々な人に参加を呼び掛ける。
		町内もり上がる大切な行事だと感じています。
82	写真美術館管理運営事業	本当に町の文化芸術の宝だと思います。
84	鬼の館運営事業	岸中の文化祭もここですべき。町の映画シアターとして定期的なイベントをする。予算投入

84	鬼の館運営事業	研修会で施設を利用させてもらうたび空調調節が難しい施設だと実感する。改善できると良い。
87	文化振興会補助事業	鬼面太鼓、風神太鼓、本当に素晴らしい文化活動。太鼓や笛の音色を聴いて心躍らない日本人はほぼいない。
90	こども体力・運動能力等向上事業	「つ」の時代（１歳～９歳（ひとつ～ここのつ））の運動は、「遊び」を含め大人の身体形成過程においてとても大切ということを意識してほしい。
94	スポーツ推進委員事業	スポーツ（運動）は予防医学の上でも生涯にわたり大切なことなので、町民健診と同じくらい、スポーツ推進委員さんらが町報紙やCATVでアピールしてもよいのでは。
97	体育施設改修事業	総合スポーツ公園の新しい遊具設置で、たくさんの子どもと保護者の集まる魅力ある町内施設となったと思う。遠足等でも有効利用していく。
99	各種スポーツ団体補助事業	キッズや高齢者向けの事業が多く、ミドル世代向けが無い様に思えます。
101	地区運動会・その他イベント開催事業	溝口地区の超民運動会は大変盛り上がった。企画・運営に若者が加わっているのもよいと思う。 二部小学校の運動会に地域チームが緑組として参加していただき活気のある運動会になった。
		昨年はSAY・YESさんが中心となって溝口地区の町民運動会は「超」民運動会として盛り上がりました。これも公民館祭と同様に4つの地区で持ち回りにし、広く伯耆町民が参加していける様にしてはどうでしょうか。
102	生涯スポーツ振興事業	大会ではないが、スキー場活性化とスポーツ振興のため、町内小中学生全員にまずスキー場の観光リフト券を配布してはどうか（現在の割引制度だと効果が薄い）
		参加者・チームが増えるよう関係者で協議し、少しでも参加しやすい大会になるよう工夫して欲しい。

●教育委員会の活動（点検及び自己評価）

施策		番号	項目	概要	主な成果等 意見・感想、主な課題・改善方針等	評価	評価選択肢
教育委員会の活動	(1)教育委員会の会議の運営状況	1	教育委員会会議開催	・教育委員会会議規則に基づき、定例会を毎月1回開催する。	・規則等に基づき、定例会12回、臨時会3回を開催し、案件数105件(報告35件、議事25件、協議15件、その他30件)を審議した。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上
			教育委員会会議の運営上の工夫	・慎重な審議と会議の効率化を図る。（定例会の議案または資料を事前に配布する）	平成28年から始めた委員協議についても継続し、最新の教育事情等について意見交換を行い、見識及び共通理解を図った。資料の事前配布について実施できなかった。 資料の事前配布については、出来る限り実施を継続するようお願いしたい。	△	継続事業ほぼ達成70%以上又は新規事業達成不十分50%以上
	(2)教育委員会活動の保護者や地域住民への情報提供・情報発信	2	広報活動の状況	・教育委員会の自己点検と評価等をホームページ等で掲載し、住民への情報提供を行う。	教育委員会の自己点検及び評価等を、毎年9月議会にて報告するとともに、町ホームページに掲載し、情報提供を行った。 ・今後も継続実施	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上
			議事録の開示・公開の状況	・開示請求があれば、議事録の開示を行う。	・議事録の概要を町ホームページで公開しているが、開示等請求があれば開示を行う。令和7年度は請求無し。 ・今後も継続実施	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上
	(3)事務局の管理運営	3	教育委員会の事務局管理運営	・事務局の事業実施状況を把握し、助言を行う。	・事業の実施状況で、必要なものは、その都度教育委員会に報告し、助言等をいただいた。（議会提出案件、標準学力調査結果など） ・今後も継続実施	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上

施策		番号	項目	概要	主な成果等 **意見・感想、主な課題・改善方針等**	評価 評価	評価 評価選択肢
	(4)町長部局との連携	4	教育委員会と町長部局との連携	・町長との懇談会を実施する。 ・総合教育会議を開催し、町長部局との連携等、協議・検討する。	・令和7年度は、総合教育会議を1回開催し、各種学力調査結果及び不登校児童生徒の状況等に関して協議・検討を行った。 ・今後も継続実施	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上
	(5)教育委員の自己研鑽	5	学校訪問	・小中学校授業参観・教職員との懇談を実施。学校運営の取組を聴取する。また学校行事等へ参加する。	・学校訪問を行い、小中学校授業参観・教職員との懇談を実施。また、学校行事等へ参加した。(卒業式・入学式など) 児童・生徒の学校生活の実態がよくわかりとても有意義だった。	○	継続事業目標達成90%以上又は新規事業ほぼ達成70%以上
		6	所管施設の訪問	・体育施設・社会教育施設等を訪問し、要望等現場の声を聞く。	・令和7年度は施設訪問は未実施。定例教育委員会において各施設の事業実施状況等(決算資料による)、今後の施設管理の方針(当初予算に向けた新規事業資料による)の確認を行った。 今後、施設訪問を再開するよう調整する。	●	未実施事業20%以下,″
		7	研修会等参加	・教育委員を対象として各種研修会等に参加し、教育委員としての知見を広める。	・鳥取県市町村教育委員研究協議会、西部地区教育委員会連絡協議会研修会のほか、中国地区市町村教育委員会連合会研修大会に参加し、教育委員としてのスキル向上に努めた。 県内での研修会は参加できているが、以前のように県外での研修への参加が少なくなった。 他の市町村、また、県外の教育委員会の活動を知るとても良い機会だった。	△	継続事業ほぼ達成70%以上又は新規事業達成不十分50%以上